

Sing for
Recreation



百万人の

レクリエーションの歌 愛唱歌集

婦人少年協会 編

☆ 推せんのことば ☆

歌を唄う楽しきは、明日への希望と勇気を与えてくれます。働く少年少女の皆さんは申すまでもなく、各職場や家庭の皆さんも音楽を愛し、歌うことに限らない喜びを持たれる方が大変多くなって参りました。私の若い頃、盛に唄われました懐かしい名曲の数々が今も尚生き生きとして唄われ、また新たなる思い出を呼び起してくれることは嬉しい限りであります。世代を超えて、老いも若きも共にどこでも唄える歌。そして楽しく、美しい歌曲を集めた歌曲集の要望に応えてこの度、婦人少年協会で編集され、この様なよい本になって世に出ましたことは真に意義深いことと存じます。

皆様の明かな職場に、御家庭に尚、楽しく、美しい歌声のいつまでも続くことを祈って、この歌曲集を御推せん致したいと存じます。

婦人少年局長

谷 野 せ っ

はじめのことは

こんな良い、楽しい歌曲集を皆様にお届けすることが出来まして、ほんとうに嬉しく思います。

歌は私たちの生活とは切り離すことの出来ないものでありますが、近頃は特に老いも若きも、歌うことに欲びと生き甲斐を持たれる方が多くなり、学校は勿論、各職場や母の会など一般家庭人の間にまで、

「歌うグループ」が盛に生れ、いろいろの「集い、や、野外レクリエーション」などにも必ずここ、かしこから楽しそうな歌声と笑い声が聞えて参ります。

歌は世につれ・・・と申しますが近頃はだんだん明るく、楽しく、そして美しい歌曲が好んで愛唱される様になりました。そこでこの様な歌曲をいつ、どこででも歌える様にしておくこともまた社交上の一つの美しいエチケットでもあらうと存じます。

この本は、その目的の為に誰にでも愛唱される良い歌曲ばかりが集められましたもので、皆様のグループの歌唱用テキストとして、また各種レクリエーションへのハンドブックとして、あなたの良いお友達になることと存じます。ぜひいつもあなたのポケットに、そして折にふれ御愛唱下さいませ。

婦人少年協会々長

平 林 た い 子

—OUR MERRY MELODY—

Sing *for*
Recreation



of
Hiking, Camp,
Group, Club,
Home & School



Recreation Hand Book

女性労働
協会
氏寄贈



いつでも
どこでも

楽しい歌・愉快な歌

※ たのしい集いの歌

- 1 さアさーしよに
歌いましょう..... 5
- 2 大きな栗の木の下で..... 6
- 3 ペンとひきゃヒュー..... 6
- 4 蛙の歌..... 7
- 5 親子井..... 7
- 6 轎屋のおじさん..... 7
- 7 シンガリンガリン..... 8
- 8 タイクオイマニマニ..... 8
- 9 笑いの歌..... 9
- 10 ジヤムボリー..... 9
- 11 キリーウオッチ..... 10
- 12 ねこのしっぽ..... 10
- 13 たのしいつどい..... 11
- 14 屈かげさやかに..... 11
- 15 サラスボンダ..... 12
- 16 ハンスカールレーベ..... 13
- 17 ジンダルバル..... 14
- 18 グッドナイトフエローズ..... 15
- 19 歌声ひびく..... 16



※



野に山に
楽しく歌つて歩こう

野外レクリエーションの歌

- 20 岩をぶちめり..... 17
- 21 朝陽はのぼる..... 18
- 22 夕もきこめて..... 18
- 23 遠き山に陽はおちて..... 19
- 24 静かな湖畔..... 20
- 25 キャンプの夜..... 20
- 26 むこうのお山に..... 21
- 27 スキー..... 22
- 28 青い風..... 23
- 29 夜あけの頃..... 24
- 30 朝..... 25
- 31 朝だ元気で..... 26

☆ 皆んなで楽しく歌いましょう

軽音楽のリズムに乗せて

- 32 メリーウイドーワルツ..... 27
- 33 山の乙女
(クレメンティン)..... 28
- 34 ハイヨリハイヨウ..... 29
- 35 山の呼び声..... 30
- 36 峠の我が家..... 31
- 37 フロニーの本願..... 32
- 38 山小舎の灯..... 33
- 39 山の人気者..... 34
- 40 谷間の灯..... 36

41	シブターの月	37
42	沢馬車	38
43	コロドの月	39
44	マイ・ブルー・ヘブス	40
45	山に月のぼれば	41
46	アイルランドの娘	42
47	夢去りぬ	43
48	ブンガサンソ	44



歌えやおどれ 節かに

日本民謡 ☆

49	五ツ木の子守唄	45
50	佐渡おけさ	46
51	鹿兒島おけさ節	47
52	木曾節	48
53	田原坂	49
54	黒田節	50
55	そうらん節	51
56	暖節	52
57	串本節	53
58	ひえつき節	54
59	こんぴらふねふね	55
60	中国地方の子守唄	56

☆ 節かに 歌うもうれし

日本名歌抒情曲 ☆

61	真珠	57
62	月見草の花	58
63	出船	59
64	浜千鳥	60

65	浜辺の歌	61
66	春の唄	62
67	赤とんぼ	63
68	待ちぼうけ	64
69	荒城の月	65
70	ちんちん千鳥	66
71	砂山	67
72	からたちの花	68
73	宵待草	69
74	やしの実	70
75	星	71
76	花	72
77	平城山	74



☆ また楽しい思い出の歌 ☆

なつかしの学歌名歌

78	ふるさと	75
79	多景色	76
80	冬の星座	76
81	早春の歌	78
82	おぼろ月夜	79
83	春風	80
84	五月の歌	81
85	たのしき我家	82
86	春の日の思い出	83
87	久しき音	84
88	星の界	85
89	追憶	86
90	湖上の月	87

91	故郷を離るる歌	88
92	眠りの精	89
93	秋の夜半	90
94	ほととぎす	91
95	菩提樹	92
96	野ばら Schubert	93
97	ローレライ	94
98	旅愁	95
99	墳生の宿	96
100	さくら	97
101	故郷の空	98



世界の民謡と名曲

102	野ばら Wagner	99
103	黒い詩	100
104	夢みる人	101
105	なつかしのヴァージニー	102
106	金髪の子ユニー	103
107	かえれゾルレントへ	104
108	マギー若き日の歌	106
109	アンニイロウリー	107



110	オールド ブラックジョー	108
111	おおスザンナ	109
112	アロハオエ	110
113	サンダルチア	111
114	ボルガの舟唄	112
115	赤いサフアーン	113
116	別れの曲(ショパン)	114
117	ロンドンデリーの歌	115
118	オーソレミオ	116
119	ボートの歌	118
120	ドナウ川のさざなみ	119
121	かっこうワルツ	120
122	希望のささやき	122
123	ひばりの歌	124
124	主よみもとに	125
125	聖夜	126
126	螢の光	127



☆この本は みなさんの大好きな歌曲を
集めた ポケット楽譜集です。

この本を友達にして、
音楽の歓びを味わって下さい。





楽しいつといの歌

歌って、笑って。
はがらかに...



1. さァさーしよに歌いましょう

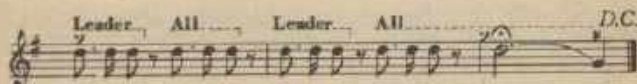
リーダーは、一節の歌を唱え、出たように子供や家庭などでキャサを唱えてこよう。



さァ さいしよに うたいまはごう さァ さいしよに



うたいまはごう おくちをあけて おくちをあけて



あけて あけて あけて あけて アー ア

動作をつけたながら歌うゆかいな歌

2. 大きな栗の木の下で

（開手と両足を開く） （膝へ） （肩へ） （肘へ） （手へ触れり）

Un - der the spread - ing chest - nut - tree,
おお き な く り の き の し た て

（両手で両足を閉じ） （肩へ） （肘へ） （手へ触れり）

When I - held you on my knee
あ な - た と お た し

（両手を肩の上に置き其の間に手） （両手を肩の間に置き其の間に手） （肘へ） （手へ触れり）

We were hap - py as could be
た の し く あ そ び ま しょう

（肩に手をのけて）

Un - der the spread - ing chest - nut tree,
おお き な く り の き の し た て

3. ペンとひきゃヒュー

★それぞれ（ ）の中の楽器をのびまねをしながら歌う。

Anonymous

★（三拍子） ペン と ひ きゃ ヒュー ★（尺八） ★（太鼓） ステ テコ テン の

★（つづみ） カッ ガ カッ ガ コロ リン シャン の ビッ ビ

★（箏）

4.
輪唱(四部)

蛙の歌



① かえるのうたは おもしろい

②

③ ケル ケル ケル ケル ケル ケル ケル ケル ブー ブー
ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ ケロ ガア ガア

④

5.
輪唱(四部)

親子どんより



① おやこどんより おすし べんとう サンドウィッチ

②

③ ラムネに サイダー きゅうー にゅうー

④

6. こなやのおじさん

一 ガッタンゴットン スットン トン ガッタンゴットン スットン トン

二 トッテン チッテン カン — — トッテン チッテン カン — —

こなやのおじさん まつろけで ガッタンゴットン トン

かじやのおじさん まつろけで トッテン チッテン カン

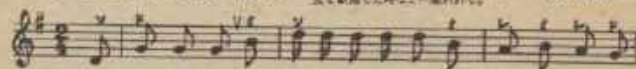
7.

シンガリンガリン

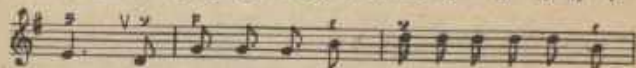
(○ ○ はその人の素性を歌う)

南防生会館や其ほかの「コズモポリター」で
友を歓迎した機曾とに謝られる。

Unknown



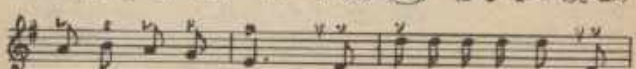
おま ○ ○ さん さア ティンガ リンガ リンで か ん げ い



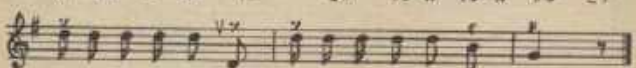
だ み ん な し て りんが りんが りんが



あそびま しょう いちねん 100う はる なつ おきふ



かわらずに 3丁 リンガ リンガ リン 3丁



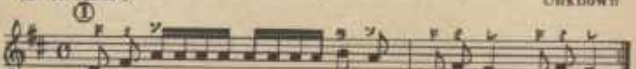
シンガ リンガ リン さす チンガ リンガ リン だ

8.

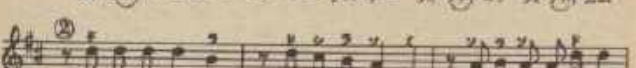
クイ クワイ マニ マニ

輪唱(三部)

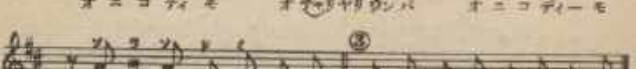
Unknown



24 24 マニマニ マニマニ 68 キー 72 24 ココ 24 24 ナナ



The second system of the musical score for 'The Bird Song' consists of two staves. The upper staff continues the melody from the first system, featuring a series of eighth and sixteenth notes. The lower staff provides a harmonic accompaniment with a steady eighth-note pattern. The system concludes with a final measure containing a whole note in the upper staff and a half note in the lower staff.



9. 笑いの歌

Allegro

圖 1-4 大井の基礎掘削



10. (1924年世界ジャンボリー優勝)
ジャムポリー

[illegible]



11. Kille Watch

キリー ワッチ

(此) 曲は、最初の小節を新調して、二拍子には、
が人、時計を鳴らす。



ワンバ ワンバ ワンバ ワンバ キリ キリ キリ キリ キリ ワッチ ワッチ



カイ ユ キン たん か ワー ハイ アア チャル マ ハイ チャル マ ボリ ワー マ



ハイ アア チャル マ ハイ チャル マ ボリ ワー ハイ

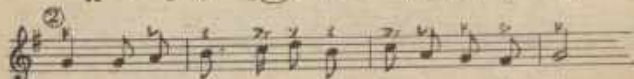


12. ねこのしっぽ

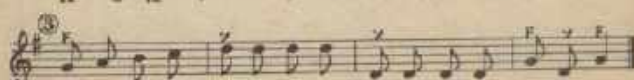
輪 唱
(三部)



ねーこのしっぽにひもつけりゃ



ねこはクルクルまわります

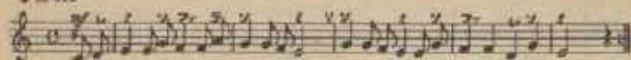


アハハハ アハハハ アハハハ アハハ

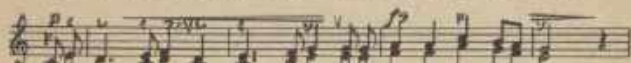
13. たのしいつとい

ポー・ニコラの歌
ドイツ民謡

J=112



一 たのしいつといつかずで わかれのうーたとなりぬ
二 ころむらきころあわせ したしくむつみしとき
一 めくみみちしひびのさちを しずかにおーもいかえし
二 ともにあそびともにうたい たのしいつといしとき



ゆたかなるおもいはーなをむねーに
かすかすのたまものむねーにいだき



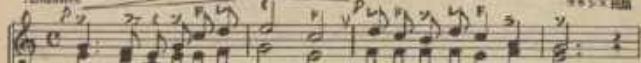
またこのつぎつとうひまで げんきにまたほからかに
たどるいましむすぬゆめと みかみとやすらかにあれ

(歌) 3つとも、初めが終りにワニソビを入ると感じがわる

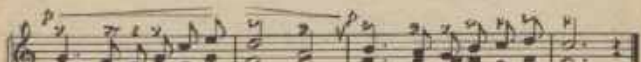
14. 星かげさやかに

ポー・ニコラの歌
オーストリア民謡

Andante



一 ほしかげさやかに しずかにふけぬ
二 なこりはつきねど まどいははてぬ



つといのようこびうたうはうれし
おのひとひのさちしずかにふも

15.

SARAS PONDA

サラス ポンダ

Dutch spinning song



Girls

Boys

Girls: Sa - ras -
 Boys: Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da,
 pon-da, Sa - ras-pon da, Sa - ras- pon-da, Ret-set-set! Sa - ras-
 Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da,
 pon-da, Sa - ras-pon da, Sa - ras- spon-da, Ret-set-set! Ah -
 Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Boom-da, Ah -
 do - ray-oh! Ah - do - ra boom-day-oh! Ah -
 do - ray-oh! Ah - do - ra boom-day-oh! Ah -
 do - ray-boom-day-ret-set-set! Aw-say-pow-say-oh!
 do - ray-boom-day-re-set-set! Aw-say-pow-say-oh!

16.

Han Skal Leve

ハン スカル レーベ

デンマーク民謡

Danish Torst

Moderato

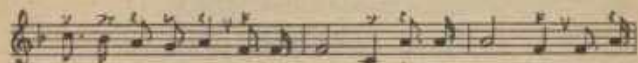
(歌に、笛に先奏あり。イヤマト、ムカミ横笛奏あり)



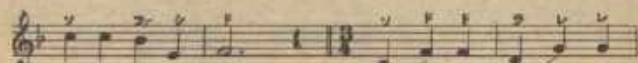
Han skal le - ve, Han skal le - ve, Han skal le - ve højt, Hur -
 ハン スカル レーベ ハン スカル レーベ ハン スカル レーベ ハン スカル



rah, Hur - rah, Hur - rah, Hur - rah, Hurrah, Hurrah, Hur - rah, Hur - rah, Hur -
 ラー ハー ラー ハー ラー ハー ラー ハー ラー ハー ラー

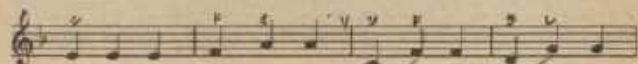


rah, Hur - rah, Hur - rah, Han skal le - ve, Han skal le - ve, Han skal
 ラー ハー ラー ハー ラー ハン スカル レーベ ハン スカル レーベ ハン スカル

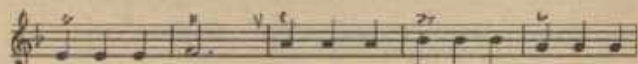


le - ve, højt hur - rah!
 レーベ ホーイト ハー ラー

Bra - vo, Bra - vo,
 ブラヴォー ブラヴォー



Bra - vo, Bra - vis - si - mo, Bra - vo, Bra - vo,
 ブラヴォー ブラヴィッシモ ブラヴォー ブラヴォー



Bra - vis - si - mo, Bra - vo, Bra - vis - si - mo, Bra - vo, Bra -
 ブラヴィッシモ ブラヴォー ブラヴィッシモ ブラヴォー



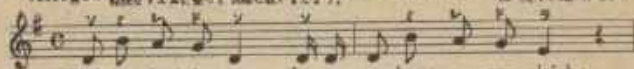
vis - si - mo, Bra - vo, Bra - vo, Bra - vis - si - mo,
 ヴィッシモ ブラヴォー ブラヴォー ブラヴィッシモ

17.

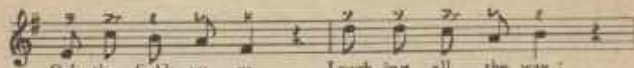
Jingle, Bells

ジン グル ベル

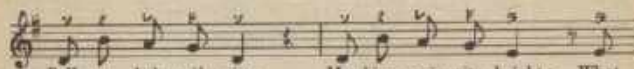
Allegro

この曲は、音楽のクリスマス歌として、現在でも婦人に歌われています。 American Song
新曲六部 作詞

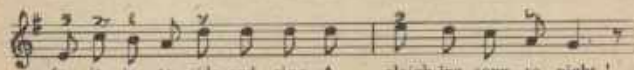
Dash-ing thro' the snow, In a one-horse o - pen sleigh;
ダッシュ ア スノウ オープン スレイ
ふりしる ゆーさのなかを



Only the fields we go, Laugh-ing all the way;
オンリー フィールドズ ウェー ゴー ラウジング オール ザ ウェイ
いせいよく はしる そり



Bells on bob-tail ring, Ma-king spi-rits bright; What
ベルズ オン ボブテイル リングメイキングスピリッツ ブライト; ウォット
すずならし ゆきをける む



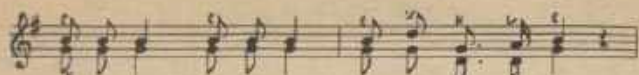
fun it is to ride and sing A sleigh-ing song to-night!
ファン イット イズ トゥ ライド アンド シング ア スレイイング ソング トゥ ナイト!
ねおとるゆくてに ひはあかい



Jin-gle, bells! jin-gle, bells! Jin-gle all the way!
ジン グル ベルズ! ジン グル ベルズ! ジン グル オール ザ ウェイ!
ジン グル ベルズ ジン グル ベルズ なりわたる



Oh! what fun it is to ride In a one-horse o - pen sleigh!
オー ウォット ファン イット イズ トゥ ライド イン ア ワン ホース オープン スレイ!
うたえようたえこーえたからかに



Jin-gle, bells! jin-gle, bells! Jin-gle all the way!
 ジン グル ベルズ ジン グル ベルズ い せ い よ く



Oh! what fun it is to ride in a one-horse o-pen sleigh!
 オー ワン ホース オペン スレイ
 おー の ひろ の に ろー た も と お よ

AS WE HEARD THEM



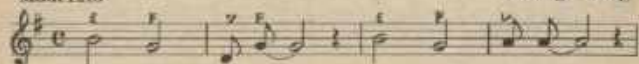
18.

Good night Fellows

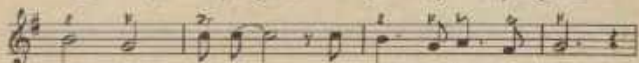
グッド ナイト フェローズ

College Song

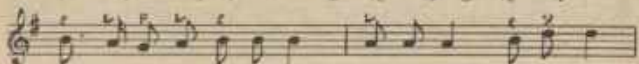
Moderato



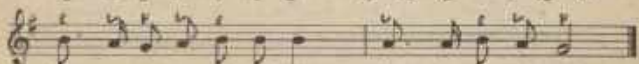
Good night fel-lows, Good night fel-lows,
 グッド ナイト フェローズ グッド ナイト フェローズ
 おー やー す みー おー やー す みー



Good night fel-lows, we're going to leave you now,
 グッド ナイト フェローズ ウェー ゴーイング トゥー リーブ ユー ノウ
 おー やー す みー ま た あ し た も



Mer-ri-ly we sing and play, sing and play, sing and play,
 メリー リー ウェ シング アンド プレイ シング アンド プレイ シング アンド プレイ
 た の し い う た を み ん な う た い



Mer-ri-ly we sing and play, by the green hill side,
 メリー リー ウェ シング アンド プレイ バイ ザ グリーン ヒル サイド
 み と り の お か で あ そ び ま し ょ う

19.

歌声ひびく

輪 唱 (三舞)

ドイツ民謡

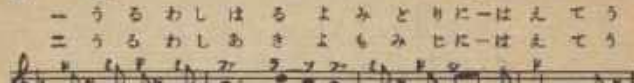
①



ー う る わ し は る よ み ど り に ー は え て う
 ニ う る わ し あ き よ も み じ に ー は え て う

た ご え ひ び ー ー く の に や ま に ー
 た ご え ひ び ー ー く の に や ま に ー

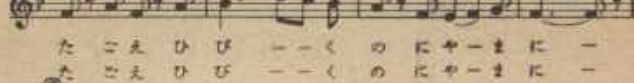
②



う る わ し は る よ み ど り に ー は え て う
 う る わ し あ き よ も み じ に ー は え て う

た ご え ひ び ー ー く の に や ま に ー
 た ご え ひ び ー ー く の に や ま に ー

③



ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

★輪 唱 について

原名を Round (ラウンド) または Kanne (カノン) といって、一つの旋律の忠実な模倣からできた声楽曲であります。これは、すでに十二世紀頃から存在したもので、英国で非常に盛んでした。英国ではキャッチ (Catch) といってラウンドにバスチャーをつけ、ユーモラスな歌詞をもったものがあり、今でもクラブなどをついて盛んです。本件として伴舞はありません。三箇合唱を美しく歌うには、輪唱を正確に歌うことが大切です。

野に。山に。
うみべに。
湖畔に。

太陽の輝く
静かな大空の下
大地に立つて
高らかに謳おう...

楽しい

レクリエーションの歌



20. 岩をぶちわり

歌-イムホウ(歌集) 中 野 田 三 郎

はづみをつけて

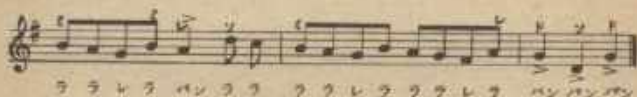
一、	い	一	わ	を	ぶ	ち	わ	ぶ	ち	わ	ぶ	ち	わ
二、	な	一	み	を	お	ち	わり	お	ち	わり	お	ち	わり
三、	た	一	に	を	お	ち	わり	お	ち	わり	お	ち	わり
					つ	こ	えて	つ	こ	えて	つ	こ	えて
み	一	ち	を	お	び	ら	け	お	び	ら	け	や	
う	一	み	を	お	こ	え	て	お	こ	え	て	や	
は	一	し	を	お	か	け	て	お	か	け	て	や	
ぶ	一	わ	を	お	び	ら	け	お	ち	わ	お	び	ら
つ	ち	わり	を	お	こ	え	て	お	ち	わり	お	こ	え
お	ち	えて	を	お	か	け	て	お	ち	えて	お	か	け
お	ち	えて	を	お	か	け	て	お	ち	えて	お	か	け
わ	れ	ら	の	ち	か	ら	し	め	せ	せ	や	や	
わ	れ	ら	の	い	き	め	み	く	せ	せ	や	や	

21.

朝陽はのぼる

元歌はつらつ

ボイスカサ(歌集)



22.

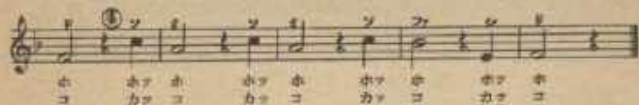
夕もやこめて

輪唱(四部)

ボイスカサ(歌集)

全曲一組(14)





白い煙のゆるぐとき、みんなしみじみ見える……美しい歌を！

23. 遠き山に陽はおちて

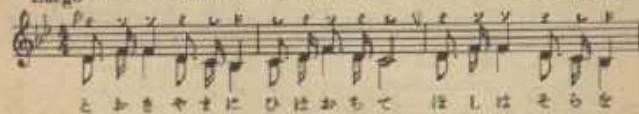
マールザーナが1800年に作った第五交響曲「新発見」

マールザーナの第五交響曲にあるメロディーです

ドボルザーク作曲

ボヘミアの民謡より

ゆつ（り）
Largo（物にこころをこめて歌うように）



24.

輪唱(三部)

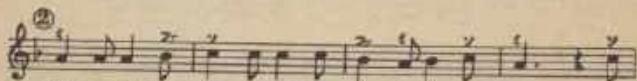
静かな湖畔

Unknown

Moderato



Sweetly sang the don - key - to his little - la-as -
しずかなこはんのもりのかげから



If you don't sing bet - ter - you shall have no grass. He -
こさげんいかかとカコがなくか



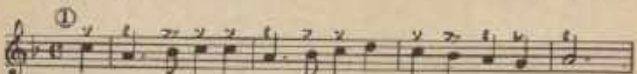
haw! He - haw! He - haw! He - haw! He - haw!
コッ カ コッ カ コッ カッ コッ コッ

25.

輪唱(三部)

キャンプの夜

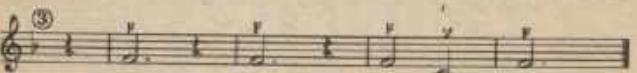
T.M.C.A. 新編 23



しずかにふけゆくキャンプのよる



やすらかにーねむれーとーかねがなる



ゴーン ゴーン オン オン ゴーン

27. スキー

文部省唱歌

♩ = 120



一 や ま まい は し ろ が ね あ み さ ひ を あ び ー て
 二 ま まい ち も ん と に み を お ど ら せ ー て
 三 か ぜ を つ ん だ き ひ だ り へ み ぎ ー へ

す べ る ス キ ー の か ぜ き る は や さ
 さ と つ と ば と お と べ の す ば が う れ る し め さん

と ー お は こ ゆ き か ま い た つ き り か
 と ー ん と せ ま り だ い と ち は し ろ か
 そ ー ら は み ど り よ

お お お の の み も か し け る よ か け る
 お お お た の の し や わ れ ん を ひ や
 お お お あ の の し や

スキー

文部省唱歌

一 山はしろがね、朝日をあびて、
すべるスキーの、風切る速さ、

飛ぶはこ雪が、まい立つよりか、
お、お、お、

この身も、かけるよかける、

二 ま一文子に、身をおどらせて、
さっと飛びこす、飛鳥のつばき、

ぐんとせまらば、ふもどか、谷か、
お、お、お、

楽しや、手練の飛やく、

三 風をつんざき、左へ、右へ、

飛へば、おどれば、流れるしや面、
空はふどりよ、大地は白よ、

お、お、お、

あのおか、われらをまねし、

☆ 全体を明るく聴いて歌ってください。

29. 夜あけの唄

久松義典

あかるく *mp*

一、きり は は れ る よ よ が あ け る
 二、ほ し も き え る よ よ が あ け る
 三、い ね は そ よ ぐ よ よ が あ け る

mf

か ぜ は さ さ や く マ ド ロ ス に お
 か ぜ は さ さ や く マ と り の す に お
 か ぜ は さ さ や く わ か ら の に お

き よ ふ な て ほ を あ げ よ う
 き よ う の に た え と び や て よ は
 き よ う の に た え と び や て よ は

み に ま か ー な ひ が の ぼ る
 り に ま か ー な ひ が の ぼ る
 り に ま か ー な ひ が の ぼ る

夜明けの唄

大木修夫 作詞

- 一、宿は晴れるよ 夜が明ける
 風はささやく マジックに
 起きよ 船出だ 帆を上げよ
 海によつかな 日がのぼる
- 二、草も消えるよ 夜が明ける
 風はささやく 鳥の足に
 起きよ 眠えよ 飛び立てよ
 夜によつかな 日がのぼる
- 三、星はそよぐよ 夜が明ける
 風はささやく 若者に
 起きよ 野に出よ 脱せよ
 夜によつかな 日がのぼる
- 四、草は醒めるよ 夜が明ける
 風はささやく 牧童にも
 乳をしばれよ 懐妊せよ
 夜によつかな 日がのぼる
- 五、雲い煙突よ 夜が明ける
 風はささやく 工場にも
 鐘を鳴らせよ 朝らかに
 夜によつかな 日がのぼる

力強く元気に ♩=184





三
 野に出でよ 野に出でよ
 風の音は 風の音は
 車輪とく 車輪とく
 風に吹く 風に吹く

二
 朝はうちふる 朝は
 電燈の音を 吹き飛ばし
 今日の命の たたかいに
 よそおいせよと 時よかな

一
 朝はふたたび ここにあり
 朝はわれらと ともにあり
 流れよ 行けよ夢
 流れよ さらば 小夜風

朝

島崎藤村

31. 朝 た 元 氣 で

八十島 龍 作詞
飯田 信夫 作曲

元氣よく (♩ = 120)

mf ャ ャ ャ ャ レ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

一 あさだ あさだ よー あさ ひ が の ぼー
二 あさだ あさだ よー あさ ひ が の ぼー

レ ソ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

るー も ゆ る おん そ ら ひ が の ぼ る み
るー き う も か ん き の ひ が の ぼ る み

mf フ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

ん な げ ん き て げ ん き て た て よー あ
ん な あ か る く あ か る く た て よー あ

ソ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

さ は こ こ ろ も か ら り と は れ る
さ は こ こ ろ も か ら り と は れ る

mf フ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

あ な た も わ た し も き み ら も ぼ く も
あ な た も わ た し も き み ら も ぼ く も

ソ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ ャ

ひ と り の こ ろ ぞ そ ら た て あ さ だー

朝 た 元 氣 で



☆ 大のしくは朝に、歌って下さい。

一 朝だ朝だよ 朝陽がのぼる

燃ゆる大空 陽がのぼる

昔んな元気で 元気で起てよ

朝はこころを かりりとしめて

あなたもわたしも 君等も僕も

ひとり残らず そら起て朝だ

二

朝だ朝だよ 朝陽がのぼる

今日も歡喜の 陽がのぼる

青んな明るく 明るく起てよ

朝はこころも かりりと晴れる

(以下同曲)

三

朝だ朝だよ 朝陽がのぼる

日本國中 陽がのぼる

昔んな起て 起てよ

朝はとどろく 夜明けの機に

軽音楽の

リズムにのせて

楽しく歌おう...

楽しくおどろう...

みんな大すきな歌



32.

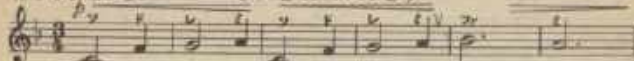
Merry Widow Waltz

メリー ウィドウ ワルツ

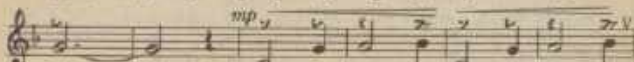
Franz Lehar
加波六郎 詞

はずんで、あかるく

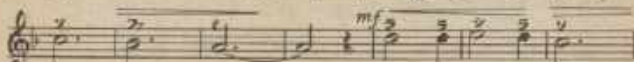
(おどれワルツを)



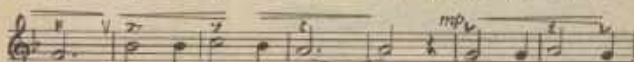
一 か が や く ひ か り を あ び
二 リ ズ ム も た の し い ワ ル



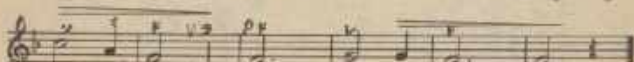
て ー お ど れ よ た の し い
ワ ー お ど れ ば こ こ ろ も



ワ ル ツ ー わ れ ら の せい
は ず ゐ ー つ ば さ ひ ろ



しん パ ラ ダ イ ス ー た た え よ
げ わ か き ひ の ー め め も と



う た え た か ら か に ー
お と お お ぞ ら へ ー

(クレメンタイン)
33. Oh, My Darling Clementine
山の乙女

Cowboy Song
加茂六郎 詞



★
小鳥の様に明るく楽しく歌って下さい。この曲は三拍子です。お花子の顔をよく出して、メロディに聴いて下さい。

ニ
二人ならんで 小鳥のように
夢見ながら 歌うもたのし
山の乙女はすめれの花よ
かわいにくげが

はろ／＼ゆれる

(クレメンタイン)
山の乙女

加茂六郎 作詞

山奥暮らしの楽しいものよ
野山にや花咲き 小鳥もうたう
山の乙女の ひこみも聞く
呼べばこたえる 吾國のごま

35.

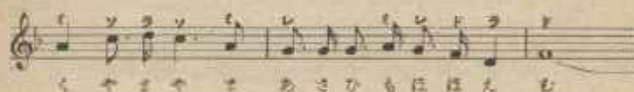
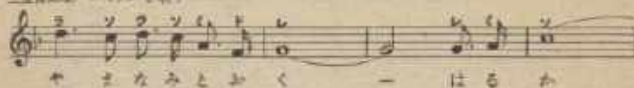
山の呼び声

Hiking Song
加庄六郎 作詞

のどかに、ゆつくりと。



二重奏は、ハルカで歌う



アメリカ民謡
加茂 六郎作詞

Slow Waltz のとこに。

一 やさやまにゆきはあれどふも
二 つのおえはとおくひびきひつ
とはうーりちかにはーはるのひ
とのむーれえよふーまをばに
はあーかくてりまきははみどりい
はうれいもなくのどかにひかげさ
ろーこことりうたいーはな
すーおおわがやにーはな
はさきみだれてーもりかげになつ
はそのはさかりてーもりかげになつ
かーしやわがふるさとのいえー
かーしやとこしえのわがいえー

峠の我が家

加茂 六郎 作詞

一
山に雪はあれど
麓はうららかに
春の陽は 紅く照り
牧場は みどりいろ
小鳥歌い
花は咲き揺れて
森に懐かしや
わがふるさとの家

二
舟は 遠くひびき
羊の群を呼ぶ
牧場には 憂いもなく
のどかに 日かげ射す
お、我が家に
花園は ばかりで
森に 懐かしや
とこしえの我が家

37. マロニエの木蔭^{かげ}

夕月山の麓にかくれ

影にかくれ……タンゴのメロディー

新川 義一 作曲

Tempo di Tango (ゆっくりと)

一 そらはく れ て 一 おかのは 一 て 一
 二 かなたと お く 一 きみは さ 一 り 一

に て かがやく 一 は 一 はしのひとみ 一 よ
 わがむね 一 に 一 のこるひとみ 一 よ

なつかしの 一 マロニエの 一 こかげに 一
 おもいで の 一 マロニエの 一 こかげに 一

か 一 一 ぞは おも い て の 序 一 一 おを ゆ す り 一 て
 ひ 一 一 とり た だ す め ば つ 一 一 きね おも い 一 に

はう 一 も 一 か え ら ね うたをうた う よ
 きう 一 も 一 あ ふ る る あつきたみ だ よ

マロニエの木蔭

坂 口

作 詞

一 夜はくれて星の影に

隠くは星の影に

なつかしのマロニエの木蔭に

影は思ひ出の 夢をゆすりて

今日も返らぬ 夢を誘うよ

二 壁方壁く君は去りて

わが胸に刻る影よ

黒い樹のマロニエの木蔭に

一人たづねば 隠るぬ思ひは

今日もあふる 熱き涙よ

三 夜はくれて星の影に

またくは星の光よ

なつかしのマロニエの木蔭に

あわれ若き日の 夢の面影

今日もはかなく 涙ふ心よ

☆ 原付いてはるやかしにうつさる影つて
 下さい。音程は実音にのびして歌うこと

新快に流すに



〔山小舎の灯〕

山小舎の灯

南無作光延山

一

山小舎の灯は、はのかに照らして
なつかしき山小舎は、灯の小燈
想ひの光に照らして、雲を照らせば
果は過ぎし日の、歌をば歌ふよ

二

山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして

三

山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして

山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして

山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして

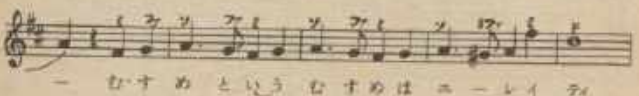
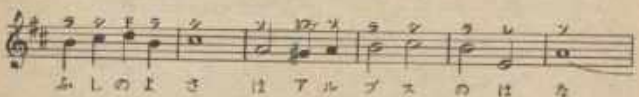
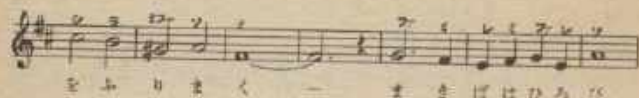
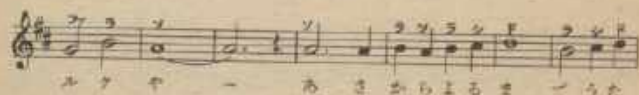
山小舎の灯は、はのかに照らして
山小舎の灯は、はのかに照らして



39. 山 の 人 気 者

Cowboy Song

Tempo di Fox Trot





山の人気者

本 歌 二 郎 詞 作

一、山の人気者 それはミルチ屋
 朝から晩まで 唄じふりまじ
 牧娘はひろく、髪は閉ちか
 その節のよきは アルプスの華
 娘という娘は ユーレイナイ
 ふん／＼と ユーレイナイ
 ミルチ屋を慕う ユーレイナイ
 ユーレイ／＼ナイ
 さすがはのどじま 唄い歌つえ
 乳しほろそばに ねきよせて
 娘達をうたわせる

二、山のミルチ屋は いつも朝か
 乳をしほろそばに 唄を忘れず
 のどかな山歌 止まり谷へ
 アルプスの華にとどまをかえす
 娘という娘は ユーレイナイ
 ふん／＼と ユーレイナイ
 ミルチ屋を慕う ユーレイナイ
 ユーレイ／＼ナイ
 乳しほろそばに
 山の娘等 唄をうたを休め
 空の外へ 唄に聞き惚れる

谷間のともしび

西 原 武 三 詞 作



たそがれにわが家の灯
 窓に映しし輝
 わが子かえる日祈る
 老し母の姿
 岩間灯ともしび
 いつも夢に見るは
 あの灯あゝ空想し
 秋風のわが家
 懐しき母の待つ
 牧場のわが家

Tempo di Slow Fox Trot

There's a lamp shin-ing bright in a ca-bin
 たそがれにわがやのひ

In the Win-dow it's shin-ing for me — And I
 まどにうつりしとき — わが

Know that my Mo-ther is pray-ing — For the boy she is
 こかえるひいのる — おいしはは

long-ing to see — When it's lamp-light in time in the
 のすがた — たにまひともし

val-le-y, — Then in dream I go back to my home
 こゝろ — いつも夢にみるは

I can see that old lamp in the win-dow
 あのひあのまどこいし

It will guide me wher-e-ver I roam —
 ふるさとのわがいえ

41.

ジブシーの月

ハルカリス 尺八

ワルツのテンポで。



一 つ き よ 一 ジブシーの
 ニ つ き よ 一 ジブシーの
 つ き よ 一 さか だす めむ
 一 な き わ が み に 一
 一 よ は は か な く 一
 あす つぎ きし 一 なひ み だし
 さの そべ うど 一 こむ いた
 しし 一 は ば の す て が たし 一

ジブシーの月

加茂六郎 作詞

一、月よ、ジブシーの月よ

はだめなき 我が身に
舞う時、踊う

恋し 母の愛。

二、月よ、ジブシーの月よ

かすむ夜は はかなく
過ぎし日を 偲べど
空しとも 果てなく

42.

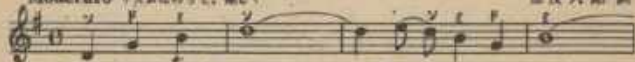
Stage Coach

驛：馬・車：

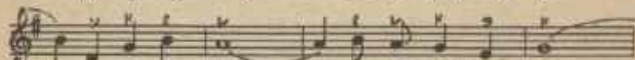
Cowboy Song

加茂六郎 詞

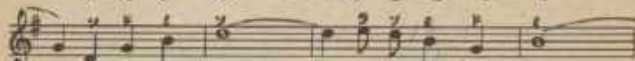
Moderato リズムにのって、楽しく



Our Stage Coach runs, ——— For - ma - ny miles, —
は し る よ — え き ば し ゃ は



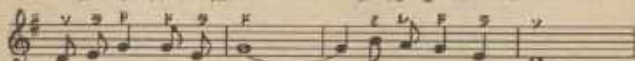
pas-sing the trail, ——— Through the fields and hills, —
— わ だ う の — あ と を ひ き



The sun sets down, ——— It's be com-ing dark: —
— ひ ゃ れ は — せ ま れ ど も



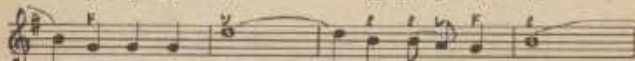
To get the town, ——— Is so hard a work. —
— ま ち に は — ま だ と お い



Go on in full - speed, ——— Go the long long way, —
は や く い そ け — と お い み ち



And quit our gloom ——— And make us gay. —
— は し れ よ — は が ら か に



We all have left, ——— Home for a while, —
— わ が や を — は な れ て



And to tra-vel west ——— For - many a mile.
— し ば し — の — た — び と よ

43. Moonlight on the Colorado

Tempo di Waltz

コロラドの月

Colorado F. Song

Moon-light on the riv-er Col-o-ra-do,
 コロラドの川のつきのよに

How I wish that I were there with you.
 いかにかがけたいをしのびて

As I sit and pine, each lone-ly sha-dow,
 なつかしののおかをゆく

Taken me back to days that we once know, We were to
 つかえをさきわがけよ たいがて

wed-d'n har-vest time, you said, That's why I'm long-ing for
 はむすぶえに しみとちかい

you, When it's moon-light on the Col-o-ra-do.
 し すきしりのゆめなく

I won-der if you're wait-ing for me too.
 たいコロラドのよるをゆく



コロラドの月の夜に
 おもかげをしのびて
 なつかしの歌をゆく
 はかなきが歌い
 やがてはむすぶえにし
 夢と想いし
 過ぎし日の夢をなく
 コロラドの夜をゆく

コロラドの月
 加茂六郎 詞

44.

My Blue Heaven

マイ ブルー ヘヴン

Home Song

Slow Fox Trot

When whip poor will call — And Ev'ning is high —
 ウェップーウィル カール — アンド イブニング イズ ハイ
 ヲウ プー ウィル に — あ お ぎ み る

I hur-ry to my blue hea-ven —
 アイ ハラィ トゥ マイ ブルー ヘヴン
 か が や く あお そ ら

A turn to the right, — a lit-tle white light, —
 ア ターン トゥ ザ ライト — ア リトル ホワイト ライト
 ひ が く れ て — た ど ー る は

will lead you to me, my blue hea-ven, —
 ウィル リード ユー トゥ ミー マイ ブルー ヘヴン
 わ が や の ほそ みち

you'll see a smil-ing face, A fire place, in co-zy room —
 ユー'ル シー ア スミリング フェイス, ア ファイア プレイス, イン コージー ルーム
 う れ さい ん が ら も た の し い わ が や

A lit-tle nest that's neat-les down where the roses bloom, —
 ア リトル ネスト, That's neat-les down where the roses bloom
 あ い の ひ か げ の さ す と こ ろ

Just ba-by and me — And Molly makes three —
 ジャスト ベビー アンド ミー — アンド モリー メイクス スリー
 こ い し い — い ん こ そ

We're hap-py in my blue hea-ven, —
 ウェア ハッピー イン マイ ブルー ヘヴン
 わ た し の あお そ ら

45.

When the Moon Comes Over the Mountain

山に月のぼれば

Comrado F. Song

加茂六郎作詞

Waltz

When the moon comes o-ver the Moun-tain, — Ec-ry
 月が山の上へ来ると 夕べ
 やまに つきのぼれば — たの

beam brings a dream dear of you, — Once a-gain we
 光が夢をあなたに連れて来て 再び
 しあのおもいで — きみと

stroll nearch the moun-tain — Thro' that rose cov-er-red val-ley we
 山を散歩する 薔薇の谷を歩くと
 もにかたり — ともにあゆみし

knew: — Each day is grey and drea-ry. — But the
 知った 毎日 灰色で 悲しいが だが
 ち — いま な おなじ — たそ

night is bright and chee-ry — When the moon comes o-ver the
 夜は 明るく 楽しい 月が山の上へ来ると
 がれは すがて — やまに つきのぼ

Moun-tain — I'm a-lone, with my mem'ries of you. —
 山に ひとり 思い出と共に
 れば — ひとりしをしのばん



まじりしをしのばん

山に月のぼれば

夜は過ぎて

今なおなじ

共に歩みし路

君と共に語り

懐しの思い出

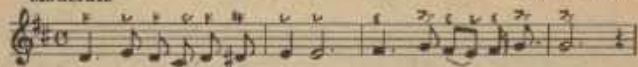
山に月のぼれば

 山に月のぼれば
 加茂六郎 詞

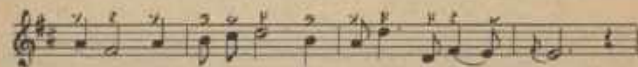
46. アイルランドの娘

Moderato

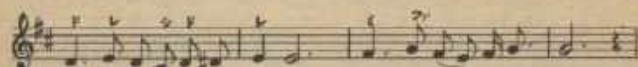
アイルランド民謡



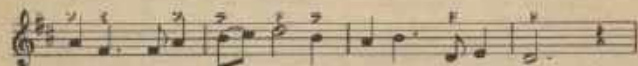
は な か こ か か え て た れ を まね く



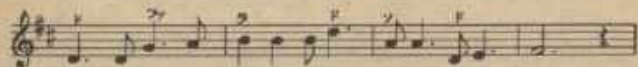
ア イ ル ラ ン ド の む ら む す め



ゆ め み る ひ と み よ き み が い だ く



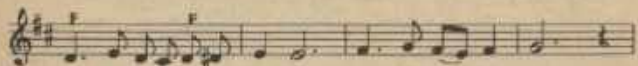
の ほ ら の は な は ゆ め の は な



か わ ら ぬ ち か い を さ さ や け ば



う る む な み だ て ー と み て る



こ こ ろ の そ こ ま で み つ め て る



あ い の ひ と み の い と ら し さ

47.

夢 去 り ぬ

R. Hattori

加茂 六郎 作詞

Tempo di Tango (♩ 44)

中め いまださめやらぬ 一はるの
 ひとよー さみーよびてほほ
 えめばーむねはおどろー
 あゝーわかさひのゆめーいま
 ーさみにぞかようーこのーせいじんの
 ゆめもーさめてちるーはなびら



この青春の夢も
 覺めて散る
 花びら

あゝ哀き目の夢
 いま君にぞ逢う

夢いまだ覺めやらぬ
 春のひと夜
 誰呼びてほゝえめば
 腕はをかくる

夢 去 り ぬ

加茂 六郎 作詞

48.

ブンガワンソロ

Bengawan Solo

Javan Folk Song

越前ヨシ武雄

Andante con espressive

ブンガワンソロ　　－は－てしな　き

－な－がれ　に　と　お　き　わ　か　し　を　き　か　ん

て　り　つ　け　る　　－た－い　よう　に　　－あ－め　し

け　－き　だ　く－　　う　　に　　－ふ　ね　を　う－か－べ　て

－む　ら　よ　り－　　ま　－　　ち　　へ　　－ま－　　ち　　よ　－り　し　　ま　　へ

－あ　き　な　い　　す　　る　　－ソ　ロ　の　な　が　れ　　－は－　　て　し　　な

く　　－ふ　る　　き　　ゆ　　め　　を　　の　　せ　　な　　－　　が　　れ　　ゆ　　く



ブンガワン　ソロ

はてしなく　流れに

遠き音を聞かん

照りつける　太陽に

照しけき清流に

舟を浮かべて

村より町へ

町より島へ

あきないする

ソロのながれ

はてしなく

古き夢を乗せ

流れ行く

☆ ねんがくしといふ曲に舟が正しく
 流れて、明るくおもしろい曲で
 流れて行く。

全国的に歌われる...

日本民謡

★ 民謡おどりに —

★ フォークダンスに —

民謡は民衆の生活の中からも自然に生れて出来たもので、作曲者はわからない。民謡の特性が歌詞の上にも、二、三、旋律、リズムの上にもあらわれている。

49.

五ッ木の子守唄

日本民謡

ゆるやかに、



50.

佐・渡・お・け・さ

日本民謡

はづみをつけて



一 ハ ア — — さ ど — ヘ — —
 二 ハ ア — — こ い — と — —



一 ハ ア リ サ さ ど — ヘ と — — ら さ — さ
 二 ハ ア リ サ い う た — と て — — い か — ら



も — — な び — く — よ ハ ア リ ア リ ア リ
 か — — さ ど — ヘ — よ ハ ア リ ア リ ア リ



サ さ ど は — い よ — い — か —
 サ さ ど は — し ゅ — く — り —



す — — み — こ — い — — か —
 な — — み — の — う — — ん —

佐渡おけさ

一 佐渡へ

佐渡へと草木もなびく

佐渡は路よいか佐渡よいか

(以下略)

二 舟いとみちたとして

舟よりよか佐渡へ

佐渡は四十九里道の上

三 佐渡と船は早さしや遅く

船をかけたや船を

四 おけさ船にのついうかうかと

月も昇る佐渡の夏

五 佐渡の三浦の陣御所へ

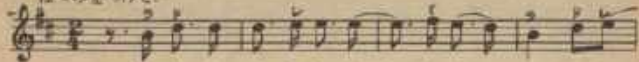
佐渡は船後に雲に佐渡に

51.

鹿兒島おはら節

日本民謡

はづみをつけて。



一 は 一 こ 一 は 一
二 ら 二 ば 二 ら 二
三 が 三 だ 三 が 三



一　こ　く　一　ぶ　一　も　え　で　あ　が　る　は
 一　こ　し　一　に　一　ま　る　に　の　の　の
 一　に　は　一　る　一　い　し　は　ら　ら　の



またず
じえみ
らみの
くがは
まほは
ハハハ
ラララ
ハハハ
オオオ

鹿兒島小原節

廣州島嶼地方之過去與未來之發展

へ花は獨島
鹽草は國分

總て上るは、
（一）

一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

（變元）變元はたゞ松原越しに

丸に十の字の
まへさへー
帆が見えた

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

へ雨の降らんぬは 草思川川流る

伊勢原良の オペレー 化粧の水

卷之四

[illegible]

わたしやおはんが　オハフー　氣にかゝる

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

「の頃は遠く馬場の、伊勢屋員と云ふ所つたと云われ。又この間は
 正月の安火祭の一歩入りにぞ横おつた」と語り終てゐる。

52.

木 骨 節

中華民國

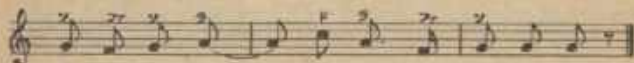
あかきくはがらに



き　そ　の　し　　—　　な　　か　　の　　り　　さ　　ん
あ　　わ　　せ　　し　　—　　な　　か　　の　　り　　さ　　ん



き　そ　の　おん　たり　は　さん　は　ナン　ジャ　ラ　ネイ
あ　わ　の　や　り　ー　た　や　ナン　ジャ　ラ　ネイ



な　　つ　　で　　も　　一　　さ　　は　　い　　誰　　誰　　誰
た　　一　　び　　を　　一　　そ　　え　　て　　誰　　誰　　誰

木會節

成田はたまたまた、この地獄に陥る。

本館のナースはナース
本館のナースはナース
本館のナースはナース

ナリ ナリ ナリ ナリ

へ、ナリー ナカノリサシ
あのをやうたふナンジャヤサハイ
星雲船へてはオキタイヨイ

[illegible][illegible]

其の地盤はナニシヤカハイ



三、**三**
二、**二**

五里の道
サイサイヨイ

心細きにサシはケラナ
出て山見ればヨイヨイヨト

「君のナニヤカノナニヤ
君のナニヤカノナニヤ
山はないヨイヨイヨイ

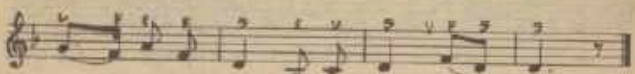
ちからづよく



一 あ め は ふ る ふ ー る し ん
 二 た ば る ぎ か な ら ー ら む か
 三 は る は さ く ら ー よ あ き



ば は ー ぬ ー れ ー る ー す に
 し か ー こ ー い ー し ー と ー ー
 な ら ー も ー み ー と ー ゆ ー め も



こ ー さ れ の た ば る ぎ か
 と ー う し の ゆ め ら あ ー
 た ー ば る の く さ ま く ー ら

田 原 坂

「雨は降る降る 人形は濡れる」

「嘘でに飾された 田原坂」

「道端のなつ 竹が揺れ」

「雨向きの 坂の縁」

「朝はさくもよ 坂なご紅雲」

「夢も田原の 草花」

「田原坂を 雨の音を聴く」

「今宵は 夢のやない」

「酒場の御師太 心に抱いて」

「九州吉良の 曲は熱い」

「遠くに流れる 田原の坂は」

「舞臺の 小夜風」

「心算すな 奥の音しぐれ」

「ここは田原の 古戦場」

田原坂は、南本郷と本郷の間にあり、九州の代表的な風景の一つです。



54.

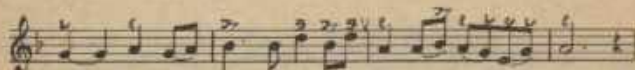
黒田節

優美に

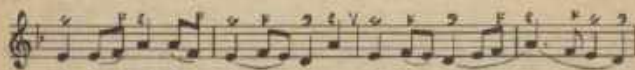
日本民謡



一 はーるのーやよーいの あけーばーのーに
二 は なたちーばーなも におーうーなーり



よーも のーや まべをーみ おーたーせーば
のーき のーあ やめもーか おーるーなーり



は なーざ かーりーーかもしらーくもーのーー
ゆーうーやれーさーーまのさみーだれーにーー



か か ら ぬ み ねーこ そーな かーりーけーれ
や ま ほ と とーーき すーな のーりーしーて

黒田節

黒田節は黒田の地名を冠した民謡の一種

（黒田の地名のあけけのに
四方の山をえわたせば
花ざかりの国を
かきめね峰こそなかりけれ

（花たちばなもけりなり
新の直道もかあるなり
ぐくれはまの五月雨に
出はとさす名のりして

（黒田の地名にならねれば
何年と経ば過ぎにけり
花かよふ山けり月影の
輝くはるこそあわれなれ

（今の花の影はくけ
ぬしは出雲ふかし
心の跡はつかねども
涙いやくこそあわれなれ



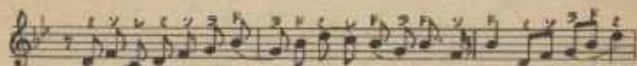
はづみをつけて



一 ヤレ ソーランソーラン ソーラン ソーラン
二 ヤレ ソーランソーラン ソーラン ソーラン



ソーラン ハイハイ おきのかもめに しおとききけばー
ソーラン ハイハイ かみはくろかみ こころのわかさー



わたしたつとり ーなみーにーきけちやサエー
はうばむすめの ーほどーのーよさちやサエー



ヤーヤーヤー ドマコイショア ドマコイショ ドマコイショ

そうらん節

マレソークラシソーラン

ソーランソーラン

ソーランハイ

岸の端に 風鈴掛れば

きやうつ鳥 浪に聞け チョイ

ヤサエーヤサ ドマコイショ

アイドマコイショ

心は黒い 心の若さ

道草の はどのよさ

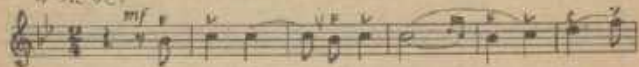
へくろが船けば 千両や馬車

朝も 銀の色

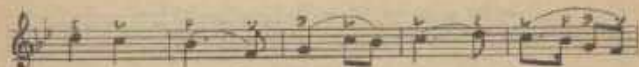
★アトラン節は、鐘の音の響きとともいふ。

金魚の音の響きとともいふ。鐘の音の響きとともいふ。

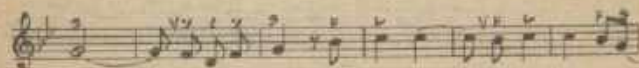
ゆつたりと。



一、いそでーめいしはーはー
二、みとをーはなれーでー



かあーーらいーさーまー
ひがーーしへーさーんー



よーサイシネまつがーみえまー
りーサイシネなみのーはなちるー



ーほのーほのとーまつが
ーおかーあらーいーなみの



みえまーーすーいそー
はなちーーるーいそー



ーほのーばーのーとー
ーおかーあーらーいー

58.

神 搦 節

日本民謡

Moderato



神 搦 節

（注）此曲は、明治初期に流行した、よく知られた民謡。

一

山の山歌の木 鳴る鈴かけてさーおーい
鈴の鳴る時や 出ておじやれ

二

鈴の鳴る時や 何と書て出ましよう
胸に水くもよと 言うて出ましよう

さーおーい

三

お節や平家の 公儀ながれさーおーい
おどきお節の 鈴の鳴る木

四

鈴の鳴る時や 鈴の鳴る時や
鈴の鳴る時や 鈴の鳴る時や



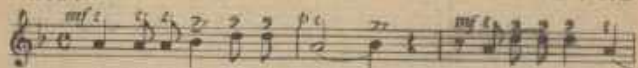
ミズウミカネ、先のしく 120

mf marcato
 こんびらふねふねおいてにほかけて シラシラ
 シラ まわればしこくはさんしゅうなかのごり
 ぞうさん こんびらだいごん けんいちどまわれは
mf
 こんびらふねふねおいてにほかけて シラシラ
 こんびらふねふねおいてに
cresc.
 シラ まわればしこくはさんしゅうなかのごり
 ほかけて シラ シラシラ まわればしこくは
 ぞうさん こんびらだいごん けんいちどまわれは
 さんしゅうなかのごり こんびらだいごん けん
mf
 こんびらふねふねおいてにほかけて シラシラ
rit.
 こんびらふねふねおいてにほかけて シラシラ

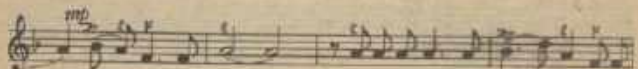
60. 中国地方の子守唄

しずかに

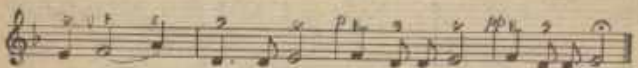
日本民謡



一 おんねこさつしやりませ おたこの
二 おんねこさつしやりませ おうはに
三 みやへまいたとさ なんとゆうて



一 かーわいさー おきてなくこのねんころ
二 こーにちさー あすはこのこのねんころ
三 おーがむさー いっしこのこのねんころ



ろ つ ら に く さ り
ろ み や に ま い
ろ ま め た よ に
ねんころらん ねんころらん

中国地方子守唄

日本民謡



一、おんねこさつしやりませ
おたこの可愛さ
おきておく子の ねんころらん
つらねさ

ねんころらん ねんころらん

二、おんねこさつしやりませ
今日は二十五日さ
明日はこの子の ねんころらん
おんねこ

ねんころらん ねんころらん

三、おんねこさつしやりませ
なんとおきておむき
一生この子の ねんころらん
まめをうに
ねんころらん ねんころらん

三、おんねこさつしやりませ
なんとおきておむき
一生この子の ねんころらん
まめをうに
ねんころらん ねんころらん

ねんころらん ねんころらん

ねんころらん ねんころらん

★ しみじみと

美しい日本旋律を歌おう

★



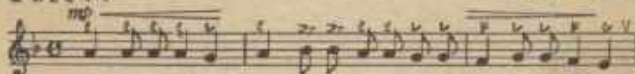
日本名歌 抒情曲

61.

真珠

此曲 藤子作曲
歌 島 聖作

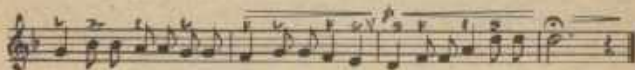
愛情をこめて



一 あたたかき しろのながれに おいたちし
二 いくとせを うみにきたえて いろはゆる



なれはしんじゆよ なみのしぶきか
なれはしんじゆよ やまとおとめの



きよきひかりの すこやかさ たまにみなぎる
ゆかしこころをつつましく うつつしかがやく

一 輝かう

星のほれに、

生いたちし

なれは真珠よ

波のしおきが、

情き光の

すこやかさ

玉にみなぎる。

二 いくとせを

塵にきたえて、

色はゆる

なれは真珠よ

やまとおとめの

ゆかし心を

つつましく

うつしかがやく。

山川 深作編
山本隆之竹曲

ゆめみるように。



月見草の花

山川 深作編

一、

はるかに海の見える丘

月のしづくをすつて咲く

夢のお花の 月見草

花咲く丘よ なつかしの

二、

ほんのり月が出たよいは

こがねの波がゆれる海

ボーと汽笛を鳴らしてく

お船はどこへ

いくのでしょ

三、

思い出の丘 花の丘

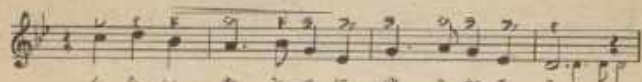
今日も一人で 月の海

じつとながめる足もとに

ほのかに匂う 月見草



一 こよいで ふねか おたこりおしや
二 いまなる りてきはて ふねの あいず



く ら い な み ま に ゆ き が ち る
ぶ に て つ い た ら た よ り を く ぬ れ



ふねは みえねと わかれの こうたに
く ら い さ み し い ほ か げ の も と て



お き じ ゃ ら と り も な く そ い た
な み だ な が ら に な も う も の

出 船

一、今宵出船か
お名残り惜しや
暗い波間に

雪が散る

船は見えねど 別れの小唄に
沖とや千鳥も 泣くぞいな

二、今鳴る汽笛は 出船の合図
無事で着いたら
便りをくりやれ

暗いさみしい 灯影の下で
涙ながらに 誰もうもの



やわらかに 1-88

mp ♪ 一 あ お い つ き よ の は ま
 ニ よ る な く と り の か な
 mf ♪ ベー に は ー お や を さ が し
 しー さ は ー お や を た ず ね
 mf ♪ て たー く と り が ー
 りー み こ え て ー
 f ♪ た み の く に か ら う ま
 つ き よ の く に へ き え
 mp ♪ れー て る ー ね れん た つ
 てー ゆ く ー ぎ ん の つ
 mp ♪ ば さ の き ん の い り ー
 ば さ の き ん の い り ー



銀の翼の 濱千鳥

 夜鳴く鳥のかなしきは
 親をにやめて海へまて
 月夜の國へ抱えてゆく

二、

 青い月夜の 濱邊には
 親をさがして鳴く鳥が
 波の國から 生れ出る
 ぬれた翼の 銀のいろ。

一、

浜 千 鳥

鳥 鳴 歌 作

65.

浜 辺 の 歌

林 杏 溪 作詞
森田海三作曲

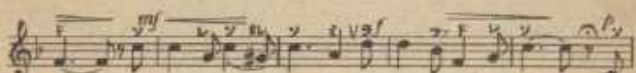
編曲に ♪ 132



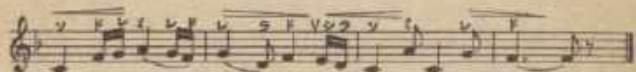
一 あしたはまーべーをさーまーとえー
二 ゆうべーはまーべーをもーとーおれー



ばーはかしーのこーとーぞしーのーばる
ばーむかしーのひーとーぞしーのーばる



るーかぜのおーとよくものさまよーよ
るーよするなーみよかえすなみよーつ



するーなーみーもかーいのいろもー
きのーいーろーもほーしのかげもー

浜
の
歌

二、ゆうべ酒べを
もとおれば
昔の人ぞ 忍ばる、
寄する彼よ かえす波よ
月の色も 星のかげも

一、あした酒べを
さまよえば
昔のことぞ 忍ばる、
風の音よ 雲のさまよ
寄する彼も かいの色も



林 杏 溪 作詞

66.

春の唄

内田 聖 作曲

軽快に

mp mp

一 ラ ラ ラ あ か い は な た ば く る ま に
二 ラ ラ ラ あ か い や さ い も い ち げ に

mp

つ ン て は る が き た き た お か か ら
つ い て は る が き た き た む か か ら

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

f

ま ち へー す み れ か い ま は あ の は なー
ま ち へー あ さ の か い も の あ の に いー

mf

う り の か わ い ひ と み に は る の ゆ め
つ ま の か こ に あ ふ れ た は る の い ろ

mf

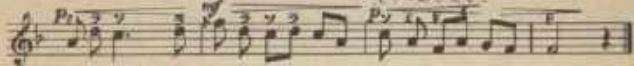
おだやかに ♪ - 60

山田 耕 澤 曲



一 ゆうや け こ や け の あ か と ん ぼ
 二 やーま の は に い わ の み ど
 三 十ー五 で ね え や は ふ め に ゆ き
 四 夜ーや け こ や け の あ か と ん ぼ

[やいおきえて]



お わ れ て み た の は い つ の ひ か
 こ か こ と て だ ん の は ま ぼ ろ し か
 お さ と の たい ら も さ む の さ
 と ま つ て い

赤とんぼ

三 本 家 風

一、

夕焼こやけの赤とんぼ

おわれてみたのは

二、 一つの目か

山の畑の 桑の實を

小かごにつんだは

まぼろしか

三、

十五でねえやは

縁にゆき

お里のたよりも

四、 たえはてた

夕焼こやけの赤とんぼ

とまっているよ

かこのさき

春の唄

新 井 三 郎 詞

一、

ラララ 紅い花束車に積んで

春が来た来た 丘から町へ

すみれ買いましたよあの花賣りの

可愛い瞳に 春のゆめ

二、 ラララ 青いやさいも

市場について

春が来た来た 村から町へ

朝の買物 あの新妻の

籠にあふれた 春の色

三、 ラララ 啼けよちろちろ

果立ちの鳥よ

春が来た来た 森から町へ

姉と妹の あの小鳥屋の

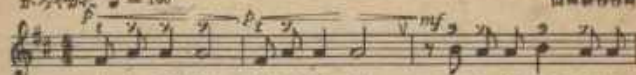
店のさきにも 春の唄



68. 待ちぼうけ

北原白秋作詞
山田耕吾作曲

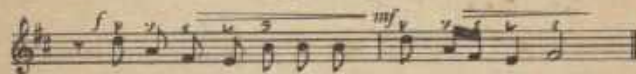
かろやかる ♪ = 180



一、ま ち ぼ う け ま ち ぼ う け あ る ひ せ つ せ と
二、ま ち ぼ う け ま ち ぼ う け し め た こ れ か ら
三、ま ち ぼ う け ま ち ぼ う け き の う く わ と り



の ら か せ ぎ そ こ へ う さ ぎ か と ん ー で て てる
ね て ま と か そ ま て ぼ え も の は か け て く
は た し こ き う は ほ お づ え ひ な た ぼ こ



こ う ろ ぎ り こ ろ げ た き の ー お つ こ
う さ ま い き ぶ つ り か お き の ー ね つ こ
う ま ー の ー ね つ こ

待ちぼうけ

北原白秋 詞

一 待ちぼうけ、待ちぼうけ、

ある日、せつせとのなかで、
そこへうさぎがどんてで、
こゝろ、こんげん、
水のねっこ。

水のねっこ。

二 待ちぼうけ、待ちぼうけ、

しめた、これからねて待てどか、
待てば、そのはかけてくる、
うさぎ、ぶつかれ、
水のねっこ。

水のねっこ。

三 待ちぼうけ、待ちぼうけ、

うさぎ、くわどり、無したど、
うさぎは、ほおづそ、ひなたぼ、
うまい、うまいかぶ、
水のねっこ。

水のねっこ。

四 待ちぼうけ、待ちぼうけ、

うさぎは、うさぎは、待ちぼうけ、
あすはあすは、蟲の外、
うさぎ、待ち待ち、水のねっこ。

うさぎ、待ち待ち、水のねっこ。





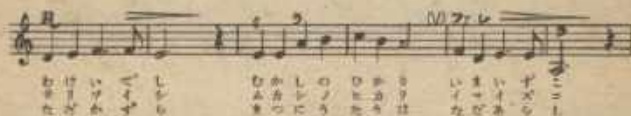
荒城太郎(1879-1903)は大分県に生まれた。高等師範学校附属音楽学校(東京音楽大学音楽学部の前身)を卒業した後、母校の助教となり、ドイツに留学したが、おしいことに病にかかり、留学半ばで帰国し、34歳で死んだ。その音楽的才能は遺憾におしされた。尚しい少数の歌曲を作ったが、その中でも土井成昭の詩に作曲した「荒城の月」をはじめとして、「秋の月」、「箱根入道」、「花」などが広く知られている。

69.

荒城の月

土井成昭 作詞
荒城太郎 作曲

調子に J=72



四 天上影は かわらねど
榮枯は移る 世の姿
嗚呼荒城の 夜半の月

三 今荒城の 夜半の月
かわらぬ光 たがためぞ
垣にのこるは ただかずら
松に歌うは ただ風

二 秋陣營の 霜の色
鳴き行く雁の 数見せて
椿うるつるぎに 隔りそいし
むかしの光 いまいずこ

一 春高嶺の 花の宴
めぐる遊 かげさして
千代の松が枝 わけいでし
むかしの 光いまいずこ



70.

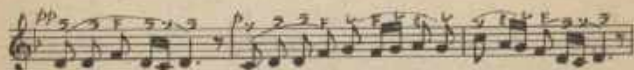
ちんちん千鳥

北原山鉄 作曲
正徳有楽 作詞

しずかに



一、ちんちんちどりのなくよこは



なくよこは がらすとしぬても まださむい



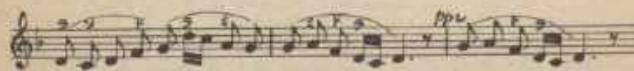
まださむい 二、ちんちんちどりのなくこえは



なくこえは あかりをけしても まださえぬ



まださえぬ 三、ちんちんちどりは おやないか



よかぜにふかれて かわのうえ かわのうえ



四、ちんちんちどりは およらぬか



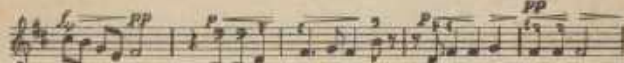
よあけのぬくぬくか はやしらむ



もほくにやー89



うみは あらみ ねこは
かしら スキヤーミ さいわ
かえろ つかうーま いて



さーどーよ すずめ なけなけ もうひは くれした
わーかーて すずめ なけなけ ままかな あした



みーろ たす よろこ べり べり おもひ さいまーで たそ
うーろ たいま さいま さいま さいま さいま

三

砂山をのりよ

ぐんぐん分けて
すずめさよなら
さよならあした
海よさよなら
さよならあした

二

砂れりや砂山

潮鳴りばかり
すずめ数り数り
また風流れる
みんな数り数り
もうだれも見えぬ

一

海は波

向こうは波よ
すずめ鳴け鳴け
もう日は暮れた
みんな呼べ呼べ
お星さま曲たぞ

砂 山

ちんちん千鳥

一ちんちん千鳥の啼く夜さは

啼く夜さは

碇子戸しめても まだ寒い

まだ寒い

二ちんちん千鳥の啼く聲は

啼く聲は

憶りを許しても まだ消えぬ

まだ消えぬ

三ちんちん千鳥は親ないか

親ないか

夜風に吹かれて 川の上

川の上

四ちんちん千鳥よ およらぬか

およらぬか

夜明けの明星が はや白む

はや白む

Andante

からたちの花はな がさいた よ しろい
 しろい は な がさいた よ からたちのとげ
 は、いたい よ あ おいあおいは ーりのとげだ
 よ からたちははた のかきね ふいつも いつもと
 お るみちだ よ からたちもあき はみのる
 よ、まろいまろい ーさんのたまだよ、か
 らたちのそば てないた よーみんなみんなさ
 さしかつた よ からたちの花はな がさいた よ



しろい しろい は な が さ い た よ

からたちの花

北原白秋

からたちの花が咲いたよ
白い花が咲いたよ

からたちのとげはいらないよ
青い青い針のとげだよ

からたちは夏の短歌よ
いつもいつもとはる遠だよ

からたちも秋はみのるよ
とみいまい金のたまだよ

からたちのそばで寝いたよ
みんなみんなやさしくつたよ

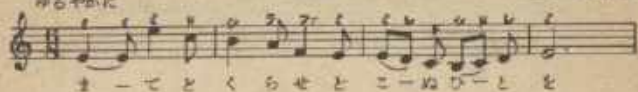
からたちの花が咲いたよ
白い花が咲いたよ

73.

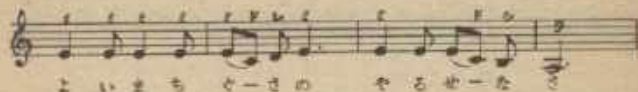
宵待草

多田新曲

ゆるやかに



まーてとくらせとこーぬびーとを



よいまちをーさのやるせーたさ



こよいはつーきもてぬそうな

宵待草

竹久夢二

待てど

暮らせど

来ぬ人を

宵待草の

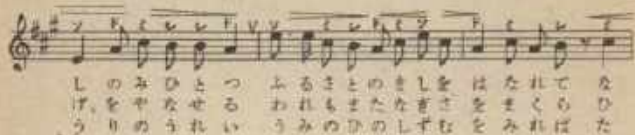
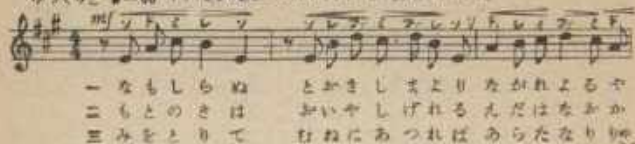
やるせなさ

今宵は

月も

出ぬそうな

ゆつくりと ♩ = 40
 文藝島崎藤村の詩をよびました。曲の上をゆくりと
 ゆくりと夢の国を歩いているやしの葉の音が聞かれます。



やしの実

島崎藤村

名も知らぬ 遠き島より
 流れ来る やしの実一つ
 ふるさとの 夢をはなれて
 なればそも 波に散月

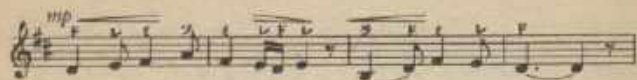
二
 もとの春は 生いや茂れる
 枝はなお 影をやなせる
 われもまた なきさをまくらひ
 ひどりの身の 浮き葉の旅ぞ

三
 実をとりて 胸につれば
 新たなり 涙の憂い
 海の日を 洗むを見れば
 たたり返つ 異郷の波
 思ひやる 八重の瀬を
 いずれの日にか

海に帰らん



うーたにつかーれ ふーみにうみーて
二かーすむそらーに たーの る ひばーり



たずさえ ゆくーや はーる の のー
しばしは いこーえ つーつみにー



かがーわのーね せーり おしーわ けにきーる
つくーしはーほ こーり すみーれ はにみーう



こ お な の はーし しろくひか るー
お め さ を し きーて なれもふせ やー

☆ 流るる川の水を思い澄めたがらふつた
きとした旋律で歌いましょう。

二かすむ空に
おのもひばり
しばしはいこえ
つつみえ
つくしはほこり
すみれはにかう
小鳥をさして
なれもふせや

一歌につかれ
女にうみで
たずさえ行くや
春の野
小川の流る
おしわけぬくも
かみなのほら
白く光る

昼:

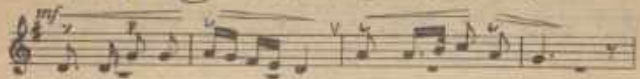


楽典に ♩=66





みずやゆらきれてをのべて



わねさし　すーねーく　あ　おーや　ご　を



に し き お りー なー す ちやう ー て い に



く る れ ば の 一 匹 一 匹 と ば け ー ず ー き



げにいつこくも北んきんの



な け め を な ー に ー に た ー と う ー べ ー

花

武藝圖志

100

豊のうららぬ河田川

◎ 匪徒之類也

たし、しすゝるを、おとす。

二 三 四 五 六 七 八 九 十

11

鬼子や、あけぼの、雲おび

めれにも四い千本を、

附錄

三

100

にしき織を穿す異端に

電をればのほろ。あびる月

妙法一覽

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS



77.

平城山

北村正徳平作詞
中井誠著作曲

古曲に並びしく(♩=80-85)



平城山

人戀うは

悲しきものと

平城山に

もとほり来つつ

塔え懸かりき

いにしえも

妻に戀いつつ

路えしとう

平城山の路に

涙おとしぬ

た 落 け け いて じ つ と ち と 新 いた ら ぬ ぞ 。



なつむしの 学窓名歌

思い出の歌

忘れぬ歌

★

今もなお わが胸に・・・



78.

ふるさと

文部省唱歌

わどき 4/4

1. うきさきいし かの山 いかにあります 父を
 小ぶなつりし かの川 つつがなしや 母を
 夢はふるさ ぬぐりて 南に風に つけても
 忘れがたき ふるさと 思ひいずも 心をこめ

2. うきさきいし かの山 いかにあります 父を
 小ぶなつりし かの川 つつがなしや 母を
 夢はふるさ ぬぐりて 南に風に つけても
 忘れがたき ふるさと 思ひいずも 心をこめ

3. うきさきいし かの山 いかにあります 父を
 小ぶなつりし かの川 つつがなしや 母を
 夢はふるさ ぬぐりて 南に風に つけても
 忘れがたき ふるさと 思ひいずも 心をこめ

わがみ すもや れいは がいき たすき くるき ふるき ききき ととと

79.

冬 景 色

文部省唱歌

♩ = 100

mf

一 さ ぎ り き ゆ る み な と 天 の
二 か ら す な き て ま に た か く

mp

ふ ね に し ろ し あ さ の し も
ひ と は は た に む ぎ を ふ む

mf

た だ み す と り の こ え は し て
げ に こ は る び の こ ど け し や

mf

い ま だ り さ め す き し の い ん
か え だ ら さ め す き は な も い ん

冬 景 色

文部省唱歌

一

さ 霧 消 ゆ る 渡 江 の
舟 に 白 し 朝 の 霜
ただ 水 鳥 の 聲 は し て
い ま だ 覺 め ず 岸 の 家

二

鳥 鳴 き て 木 に 高 く
人 は 烟 に 妻 を ふ ち
げ に 小 春 日 の の ど け し や
か え り 咲 の 花 も 見 ゆ

三

嵐 吹 き て 雪 は 落 ち
時 雨 降 り て 日 は 暮 れ ぬ
若 し 燈 の も れ 来 ず ば
そ れ と 分 か じ 野 べ の 里

80.

冬の星座

三 作詞 三 作詞

Modern to

一　こ　が　ら　し　と　だ　え　て　き　ゆ　る　そ　ら　よ　り
二　ほ　の　ぼ　の　あ　か　り　て　な　が　る　る　き　ん　が

The first staff of music begins with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The tempo/mood marking is *mp*. The melody consists of eighth notes: B-flat, A, G, F, E, D, C, B-flat, followed by a quarter rest. This is followed by another eighth-note sequence: B-flat, A, G, F, E, D, C, B-flat, and ends with a half note B-flat. The dynamic marking changes to *mf* at the start of the second measure.

ち　じょうにふり　し　く　く　すしきひか　り　よ
お　りオンまい　た　ち　ス　バルはさぎ　め　い

も の み たい こ ち る し じ ま の な か に
た ち う を ゆ び さ す ほ く と の は り

き ら め き 仰 れ つ つ せ い 派 は め ぐ る
き ら め き 仰 れ つ つ せ い 派 は め ぐ る

★冬の星座

一、本報之宗旨

さゝのく度

地上に降りてく

新しき光

ものみないこと

しごまの事

きこめと舞れつつ

足腰はゆてゐる。

10

漢を以て漢河

大正十三年

下ばるにきぶぬく

世に名を傳へし

此の如く

きらめき橋につつ

星宿はめぐる。

[illegible]

81.

早春の歌

曹大 一 昌 作 詞
李 田 堂 作 曲

♩ = 118 bpm



一 は ろ は な の み の か せ の さ な さ
二 こ お り と け さ り あ し は つ の る



えに　もや　おあ　はう　たち　うお　すと　いぞ　きき　うと　のは　にて　たさ　一一　ぞむ



てー たの えき こ もー ずー らの あき に きー とー どー



ずーと　き　に　あ　ら　ず　と　こ　え　も　た　て　ず　ー
ら　ー　き　う　も　の　う　も　ゆ　き　ー　の　そ　ー　ー　ら　ー

早春の歌

書史一編

春は名のみの 風の寒さや
谷のうぐいす 歌は思えど
ときにあらずと 聲もたてず
ときにあらずと 聲もたてず

氷とけ去り あしはつのぐも
さては時ぞと 思うあやにく
きようも きのうも 雪の空
きようも きのうも 雪の空

☆ 金曜夜とつとより消灯にて静かまじよう

のどかに ♩=80



朧 月夜

文部省唱歌

一
菜の花畠に 入日薄れ
見渡す山の端 霞深し
春風そよ吹く 空を見れば
夕月かかりて 匂い淡し

二
里わの火影も 森の色も
田中の小道を 迫る人も
蛙の鳴く音も 鐘の音も
さながら震める 朧月夜

☆上段に明るく

優しく歌って下さい



83.

春 風

S. Foster

文部省 唱歌

Moderato



春 風

一、吹けそよそよ吹け

春風よ

ふけ春風ふけ

柳の緑に

吹けよ吹け春風よ

やよ春風ふけ

そよそよ吹けよ

二、やよ吹くなよ風

この庭に

風ふくなよ風

櫻の柱に

吹くな風この庭に

やよ吹くなよ風

ふくなよ風よ

☆上は五線に吹く風を美しく歌うて下さい

mf
 一 た の し や こ が つ く さ き は も え
 二 う れ し や こ が つ ひ か り は は え

 mp
 お が お の き し に す み れ に お う
 わ か ば の も り に こ と り う と う

 mf
 や さ し き は な を み つ つ め け ば
 そ よ か ぜ わ た る こ か げ ぬ け ば

 mf
 こ こ ろ も か み ー し そ ぞ ろ あ る き
 こ こ ろ も か み ー し そ ぞ ろ あ る き

五月の歌



一、 たのしや五月
 草木はもえ
 小川の原に
 すみれ咲く
 やさしき花を
 見つゝゆけば
 心もあはれし
 そぞろあるき

 二、 うれしや五月
 日影は短え
 石壁の森に
 小鳥歌う
 そよ風わたる
 木陰ゆけば
 心もほし
 そぞろあるき

モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, オーストリア 1756-1791)
 わが 35 年の短い生涯でありながらモーツァルトの作品は一千を超え
 彼は音楽史上まれにみる天才で、奇蹟の神童と呼ばれています。

Moderato



一 た き ざ せーおー い くる たーに の ほーそー
二 み ち の さーわー ら び は あーす に のーこー



みーち あ ら し みーにー し み て 晩 う
しーて な れ し たーにー が わ の はー



ひ は かーくー れーめ た の し き わー
し を わーたー れー ぼ う れ し や わー



が や は こ の ま に み え た り の き の いーとー
が や は ち か く に き た れ り に わ の はーなー



や な ぎ かー ぜ に なーびー きーて
い ば ら かー ぜ に かーおー りーて

樂しき我家

一、新貨賣いくる
在の街道

屋敷にしみて

夕日は隠れぬ

愛しき我家は

木の間に見えたり

秋の風

風にまぎれて

二、道のさわりは

あすに曉して

なれし母川の

橋をわたれば

うれしき我家は

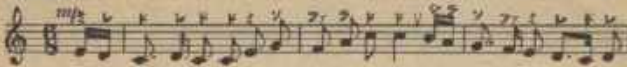
近くにあり

園の花いばら

風にまぎれて

アイルランド民謡
在岡吉雄 作詞

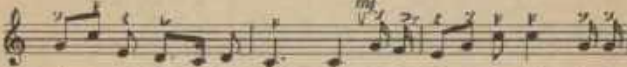
Andante



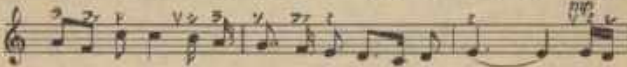
 一 の ー と か た ひ か り な が れ る の ー は ら の ま ー ひ
 二 き ー ら ら に お と る お が わ は さ ー ら さ ら う ー た



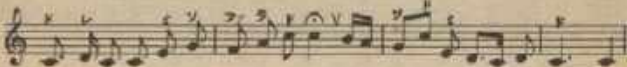
 る ー わ ー か く さ し い て う た え ば お ー
 い ー わ ー か ば に そ よ ぐ か ぜ の ね お ー



 も ー い は ー る か ー か が や ー か に う か
 も ー い ゆ ー す る ー わ が む ー ね に は な



 お ー く も あ こ が れ を の ー せ て ー た ー
 ひ ー ら く よ ろ こ び を の ー せ て ー う ー



 の しい ゆ め は か け る よ そ ー ら ー の か ー な た ー
 た こ え は る か か け る よ あ ー お ー い そ ー ら に ー

☆ 朝快にまよふ心は故郷のまよひ



一 のどかな光景、
 野原の真昼、
 青草の緑、
 思ひはるか、
 舞やかにうかがひ、
 あこがれを、のせて、
 流しう舞は、かけるよ、
 空のあなただ。

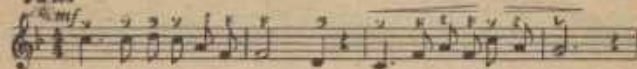
二 まるかに、おとる小川は
 さわやかに、
 新緑に、そよぐ風の音、
 思ひゆすも、
 わが胸に花ひらく、
 喜びをのせて、
 歌声はるかに、
 春の空に。

春の日の思い出

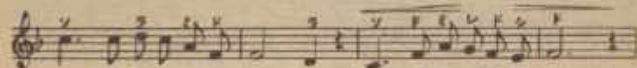
88. ★ 星 の 界

林 幸次 作曲
ロバース 作歌

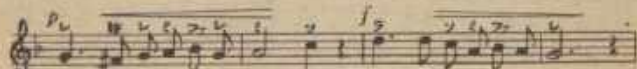
J. 104



一つ きなきみそらに きわめくひかり
二く もなきみそらに よこたうひかり



あ あそのほしかげ きぼうのすがた
あ あようようたる ぎんがのながれ



じんちははてなし むせうのおちに
あ おきてなかむる ばんりのあなた



いざそのほしかげ きわめもゆかん
いざさおさせよ やせうりのふねに

★ 星 の 界

一

月なきみ空に きらめく光

あゝその星影 希望の姿

人智は果なし 無窮の遠に

いざ其の星影

きわめも行かん

二

雲なきみ空に横たう光

あゝ洋々たる 銀河の流れ

仰ぎて眺むる 萬里のあなた

いざ輝かせよや 窮理の船に



Moderato

一、ほしかげやさし —く またたくみそ
二、さざなみかそけ —く ささやくさし

ら — あおぎてさまよ —い こかげをいけ
べ — すずかぜうれし —く さまよいいけ

は はうらのそこぎ —は かもいで—さそ
は くだくるつきか —げ かもいで—さそ

い —て すみゆくこころ —に し
い —て すみゆくこころ —に し

の ばるるむかし あなつかし そのひ
の ばるるむかし あなつかし そのひ

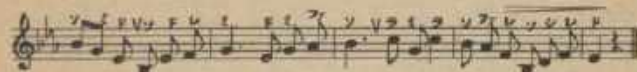
星影やさしく またたくみ空
あおぎてさまよ 木陰を行けば
葉うらのそよぎは 想い出さそいで
澄み行く心に 偲ばるゝむかし
あゝ なつかしのその日

二、
さくなみかそけく
さゝやく岸べ
すゞ風うれしく
さまよい行けば
くだくる月影
想い出さそいで
澄み行く心に
偲ばるゝむかし
あゝ なつかしのその日

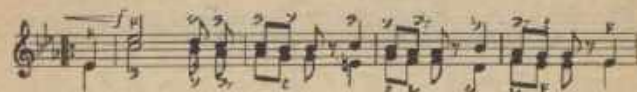
さやかに ♩ = 80



一つきか げ さやけく かぜも ふかぬおきの
二さぎな み あやおり うおも おどるみずの



よーわますみ の かがみか ちりも おかぬみずうみ
おーも かつらの さえだか さおに かかるみずくさ



いざ わが とーも おぶーね いだーせ い
いざ わが とーも たかーく うたーえ い



さ わが とーも ともづーな と けて や
さ わが とーも ふなばーた う て や

(この歌の原曲は歌劇「ロイ・マ・サル」第一幕の幕あきの合唱。)

湖上の月

吉岡 昭彦



二

小舟のやうに

風もおどる 水のおも

波のさけか 岸にかかる水草

いざわが友 高く歌え

いざわが友 ふなばな打てや

☆おぼしくと無縁なく歌つて下さい。

91.

故郷を離るる歌

イ・イ・ツ 英 編
青島一品作詞

Moderato



故郷を離るる歌

青島一品

一 風のまのり

なでしこ

今日はなれをさかむる

おわりの日なり

思えば涙 ひざをむす

さらば故郷

故郷さらば

二

つくし摘みし丘べよ

杜の森よ

小舟をつりし小川よ

やなぎの土手よ

別るるわれを あわれと見よ

さらば故郷

故郷さらば

Andante



眠りの精

一 月の光に 花も草も
夢を追いつ、うなじたれぬ
声をばひそめて 枝はさやぐ

「眠れく 眠れわが子よ」

二 小鳥たのしき 歌をやめて
小さきふしどを 悪い行きの
野へには虫の音 聴りあぐる

「眠れく 眠れわが子よ」

三

眠らぬ子らを 求めつゝぞ
眠りの精は おとない来ん
あやしきその手の見えぬひまに

「眠れく 眠れわが子よ」

93.

秋の夜半

作・木下尚江 作詞
キム・バー 作曲

しずかに

あき の よ わ の み そ ら
い え を は た れ く に
す み て つ き の ひ か り き
い て ひ と り と お く ま
ふ く し ろ く か り の
な ぶ わ が み お や
む れ の ち か く く ら よ
か も う お も い し げ し
ひ と つ ふ た つ い つ つ な つ
か り の こ え に つ き の か げ に

この曲は、アイワの歌劇作家キム・バーが、古い伝説によって、作曲した「自由の射手」の中の歌で、1820年初演されて以来、現在に至るまで名曲として敬愛されています。

一、秋の夜半の
みぎはるて
月の光り
清く白く
風の群の
近く果るよ
一つ二つ
五つ七つ
家を離れ
故郷を出て
ひとり遠く
学ぶわが身
親をおもう
思ひしげし
風の声に
月のかげに

♩ = 80 *mf*

おぐら きよわを ひー と りゆけ

ば くも よりし ば し つー き はもれ

f て ひと こ え い ず こ な く ほ と と ぎ *mp*

mf す み か え る ひ ま に すー が た き え

mf ね ゆ め か と ば か り なー お も ゆ け

f ば ま た も ゆ く て に やー み は お り ね

ほととぎす

片 嘘 き 假 ん 手 を
ひ ど う 行 け ば
雲 よ う し ば し
月 は も れ て
一 い ず こ
鳴 く ほ と と ぎ す
見 か え る ひ ま に
す が た 消 え ぬ
夢 か と ば か り
な り も 行 け ば
ま た も 行 く 手 に
や る は お り ね

ライオン (1876-1899) は、イギリスの作曲家で、歌曲を多く作曲しました。それは旋律が美しいので、広く歌われています。「ほととぎす」は、その中でも、最も有名になっています。



Schubert, Franz Peter (1797-1828) (作曲家)

デビューは1977年1月21日、オーストリアのザルツブルグ・モザーク・ホールで、
彼ら自身編成の第一交響曲として行われた。

彼は非常に貧しかったが、彼は生来の天才で、友人達を驚かすゾロエツをつくつて楽しみながら深山の石を一つづついきました。

彼は一生のうち六回以上の美しい歌声をつくり「歌仙の王」と呼ばれました。

彼の曲はどれも愛しいイメージをもちあわせています。

95.

菩提樹

經濟發展與你

2001—2002 年度

ぬこがねをもつて、遊んで、448



一泉に添いて 茂る昔提樹
幹にはえりぬゆかし言葉
うれし恋しにといしその陰
いとしその陰

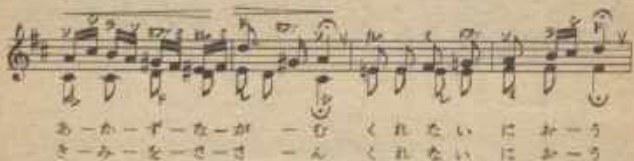
二、今日もよぎりぬ 暗き小夜中
ま闇に立ちて まなことずれば
枝はそよぎて 語るごとし
「来よ」とし友 此處に幸あり
「此處に幸あり」

三面をかすめて　吹く風寒く
笠は飛べども捨てて急ぎぬ
はるかに離れてたたずまえば
なをまさこける「此處に幸あり
此處に幸あり」

☆「野ばら」はシェーベルトが活版屋時代にドイツの有名な詩人ゲーテの詩に作曲したものです。

花 葉 蘭 風 作詞
シェーベルト 作曲

原典に「＝43



野ばら

一、わらべは見たたり
野中のばら
清くに咲ける
その色愛でつ
あかすながむ
紅香う
野中のばら

二、わらべは折りの
野中のばら
手折りて あわれ
清らの色香
とわにあせぬ
紅香う
野中のばら

二、手折りて行かん
野中のばら
手折らば手折れ
思ひ出ぐきに
君を頼さん
紅香う
野中のばら



花 葉 蘭 風

97.

ローレライ

☆ライン河（ドイツ）の上流にあるローレライの岩山には
この歌詞のような伝説があって、むかしから多くの詩や
歌に採られていた

近藤 潤 作曲
ジ・ム・ヘム 作詞

ゆるやかに ♩ = 108

mp

ソ ラ ソ ド シ ラ ソ フ ヴァ イ シ ド レ イ

一 な じ か は しー ら ね ど こ こ ろ わー び てー
二 う る わ し かー ど め の い わ に たー ち てー

mf

ソ ラ ソ ド シ ラ ソ フ ヴァ イ ソ フ レ ド

わ か し の つー た え は そ ぞ ろ み に し むー
こ が ね の くー し と り か み の み だ れ をー

mf

ソ ラ ソ ド シ ラ ソ フ ヴァ イ ソ フ レ ド

わ び し く くー れ ゆ く ラ イ ン の なー が れー
と き つ つ く ち ず さ ゐ う た の こ え のー

mp

ソ ラ ソ ド シ ラ ソ フ ヴァ イ ソ フ レ ド

い り ひ し き やー ま か と やー
く す し かー ま に あ た か ま く はー ろー

ローレライ

近藤 潤 歌

一 なじかは知らねど 心わびて
昔の傳説は そいふ身に染む
悠しく暮れゆく ラインの夜
入目に山々 赤く映ゆる

二 美しい乙女の 巖頭に立ちて
黄金の網とり 髪を亂れど
抱きつゝ くもやふむ 歌の聲の
神々しき魔力に 魂をえよう

三 清き水く 旅人 歌にあこがれ
いわねも足らずで 仰げばやがて
波間に沈むる 人も舟も
神々しき魔力 歌うローレライ



こころをこめて ♩=96

mf ソ イ ソ F - ヲ F ソ V F レ イ レ ド レ
 一 ふ け ゆ く あ き の よ た び の そ ら ー の
 ニ ま どう つ あ ら し に ゆ め も や ふ ー れ

mp ソ イ ソ F - ヲ F ソ V F レ イ テ ヌ F
 お び し き お も い に ひ と り な や む
 は る け き か な た に こ こ ろ ま よ う

ソ F - ヲ F ヲ V ヲ F ヲ F V
 こ い し や ふ る さ と な つ か し ち ー ち は は
 こ い し や ふ る さ と な つ か し ち ー ち は は

mf ソ イ F F - ヲ F ソ V F レ イ ク ド F
 ゆ め し に た ど る は さ と の い え じ
 お も い に う か お は も り の こ ず え

mf ソ イ F F - ヲ F ソ V F F
 ふ け ゆ く あ き の よ た び の そ ら ー の
 ま どう つ あ ら し に ゆ め も や ふ ー れ

mp ソ イ F F - ヲ F ソ V F レ イ
 お び し き お も い に ひ と り な や む
 は る け き か な た に こ こ ろ ま よ う

一、 ふけゆく秋の夜
 旅の空の
 おびしきおもいに
 ひとりのやむ
 こいしや故郷
 なつかし父兄
 夢路にたどるは
 さとの家路
 ふけゆく秋の夜
 旅の空の
 おびしきおもいに
 ひとりのやむ

二、
 空うつあらしに
 夢ちやぶれ
 はるけきかなたに
 心まよう
 こいしや故郷
 なつかし父兄
 おもいに浮ぶは
 森のこずえ
 夢うつあらしに
 夢ちやぶれ
 はるけきかなたに
 心まよう

99.

宿 生 の 殖

Home, Sweet Home

 文 楽 歌 唱
 ビショップ 作曲

Andante ♩ = 80

一はにのうのやどもわが一やーど
 ニふみよむまどもわが一まーど
 したるまーのよそいうらーやまじと
 したるまーのよそいうらーやまじと
 のどーか なりやはるーのそらる
 のどーか なりやはるーのそらる
 はなーはあるじとむしはとも
 はなーはあるじとむしはとも
 おおわがやんどよまたた
 おおわがやんどよまたた
 のーしとちーたのーもししやや

100.

$$\frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2} \right) = \frac{1}{2}$$

三、車、馬、錢、糧



植生の宿

1

地生の宿も わが宿も

玉のよそおい 葉まじ

のどかなりや 春の空

花はあるじ　鳥は友

わが宿上

たのしみ たのしみ

11

ふちよむ家も　わが家も

るりの床も　　談まじ

きよらなりや 秋の夜半

月にあるし 虫は友

三、

たのしきもの たのしみ

故郷の空

★

10

夕空はれて 秋風ふき

月影おちて　鈴虫なく

思えば直し 故郷の空

あゝ
わが
母ハ
カニ
ト

—

すみゆく水に 秋藏たれ

玉なす露は　すすきにみつ

おもえは儼たり故郷の野

誰と遊ぶ

☆ 何れかし新しい精神を求むる歌で、
高のふる懐しい歌です。余り感情的に
ならぬ確あつたりと歌つて下さい。

101.

故郷の空

小中級歌集 2
五線トランプ 25頁

かろやかに

mp ソ ソ ミ レ ド レ ヴェ ソ ソ ラ ソ ド

一 ゆうぞらはれてあきかせふき
二 すぎゆくみずにあきはぎたれ

ソ ド シ ヲ ヲ ヴェ ソ ラ ソ ソ

ソ ソ ミ レ ド レ ヴェ ソ ラ ソ ド

つ きかげ おちてすずむしなく
た まなす つゆはすすきにみつ

ソ シ ヲ ヲ ト ソ ラ ソ

mf ミ ト レ ヴェ ソ ド ト *f* ヴェ

おもえばとあしこぬうのそらあ
おもえばにたりこぬうののべあ

ラ ラ フ フ う う う

ソ ミ フ レ ミ ド ヴェ *mp* ラ ド

あわがちはははいたかれにおわす
あわがちはははいたかれとあそぶ

ド シ シ ヲ シ ソ

皆さん！ 楽しく歌いましょう。



世界の民謡と名曲

☆ 古い国世界の人々の心の中に生きてきた民謡や、偉大な作曲家の残した名曲、あるいは日本に古くから歌われて続けた民謡や、どの民謡をとり出してまでも……

私たちの心を、生活をも、楽しく、美しく、豊かにしてくれるであらうことを信じています。



102.

ウエルナーの

野ばら

近藤 熊三 作詞
ワグネル 作曲

愛しい

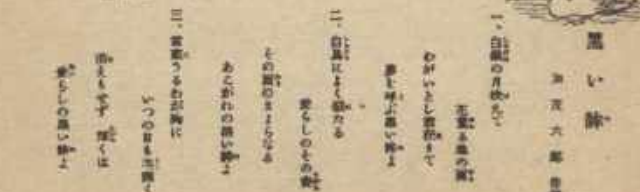
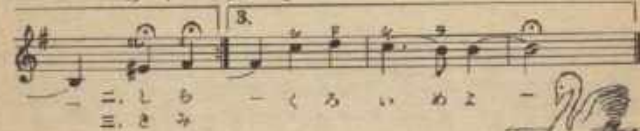
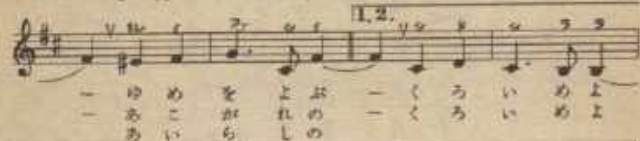
一 お ら べー は み た り あ れ のー のー
ニ た お ら ー ん わ れ は あ れ のー のー
う ら ー ん あ と く さ よ く う れ しー や
ば ら あ た え え す わ れ は し の べー ど
ー ん と は し りー て よ り め ば ー ら よ
と お に き み を ー ば さ さん は ー ら よ
あー か き あ れ の の ば ー ー ら
あー か き あ れ の の ば ー ー ら

103.

黒い眸

ロシア民謡
加茂六郎作詞

Valse lento



Moderato

S. Foster

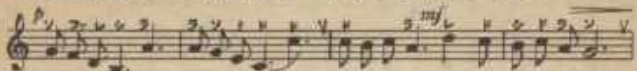
加茂 六郎 作詞



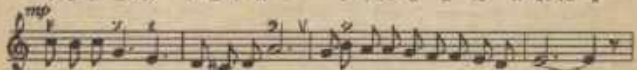
一 ゆめみるや おとめよ ほしやとるつゆのごと 一
二 ゆめみるや おとめよ なみにちるうたのこえ 一



さわがしき そのひの うさもきえてきよらに 一
はてしなき うたなら あさとともにきよらに 一



うるわしの おとめよ 一 やさしおがしらべの
うるわしの おとめよ 一 うみにもまたかわにも



きみよぶて うたえば ゆめじよりかえりこよ 一
あかきひは かかやき ゆめにゆききみをよぶ 一



かえりこよや わがもと ああ
かえりこよや わがもと ああ

(おとめはかえりてきて、ふしむかしもぬれぬしをいそいで歌う。)

夢見る人

加茂 六郎 作詞

二

夢見るや 乙女よ
波に散る歌の声
果しなき願
想とともに きよらに
うるわしの乙女よ
海にも また川にも
紅き花はかきやき
夢路行く道を呼ぶ
かえり来よや わがもと

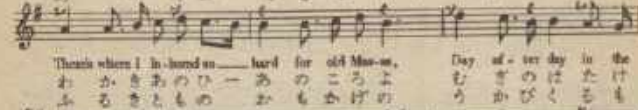
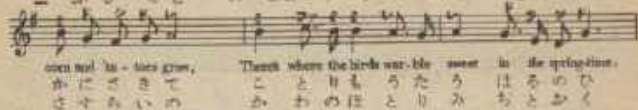
夢見るや 乙女よ
波に散る歌の声
果しなき願
想とともに きよらに
うるわしの乙女よ
海にも また川にも
紅き花はかきやき
夢路行く道を呼ぶ
かえり来よや わがもと

105. Carry Me Back To Old Virginny

なつかしのヴァージニー

アメリカ民謡
加茂六郎 詞

原曲を二のこし ♩ = 72



なつかしの
ヴァージニー

加茂六郎 詞

ふるさとの

おのヴァージニー

娘の花ゆたかに舞きて
小鳥もりたり 春の目
目にはうかぶも なつかしや
若きあの日 あの頃よ
妻の娘 たがやしつ
日毎のふたりのしきの
めいさを受けし愛の園

ふるさとの

おのヴァージニー

われ年おいて きさういの

同のはより 道と行く

歩みおそき わが姿

古き友の面影の

浮びくるも なつかしや

家の隅に ふるさとの
すがた見るは いつの日

『金髪のジュニー』は、1904年に作られたが、ジュニーとはフォスターの妻の名前である。

Moderato



一、い つ も ゆ め に み る ジュニー
 二、あ さ に ゆ う べ に も ジュニー



き ん ば つ を な び か せ て か わ の ほ と り を
 な な い ろ の に じ の よ い な い つ も さ わ や か



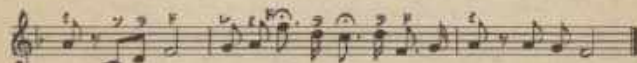
と ん で い く ひ な ぎ く の ー は な も ゆ れ て
 な ジュニー あ め の ひ は ー く も に か く れ



は つ な つ の そ ら に ひ び く よ あ い ら し い あ の
 あ の こ え も い と し す が た も は る か な る ゆ め



う た こ え あ-----い つ も ゆ め に み
 の か た た あ-----あ さ ひ か げ の よ う

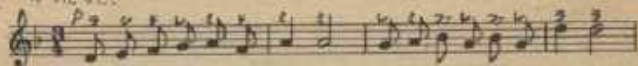


る ジュニー き ん ば つ の う つ く い お と め
 な ジュニー き ん ば つ の う つ く い お と め

107.

かえれソルレントへ

この歌は名高いナポリの民謡で、ソルレントはナポリの近くにあり、美しい町である。
ナポリ 民謡
加茂 六郎 作詞
ゆったりと、



う る わ し の う み は ま す み に か が や き
二 う み は ふ る さ と よ と わ に ぞ か わ ら し



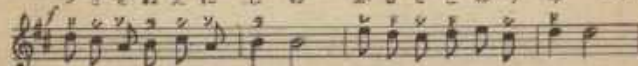
の と か な な み ま に わ れ を い だ く よー
や さ し な み の お と き み よ さ か ず やー



オ レ ン ジ の は な は ゆ た か に も か か り
ふ し ぎ な る ち か ら そ こ ふ か く ひ め て



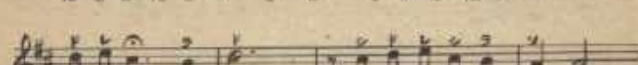
ほ ほ え む お と め の ひ な に も さ く よー
つ き せ め え に し の ふ る さ と の う みー



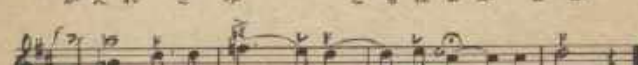
な つ か し の う た は た か ら に ひ び き て



は る か た び ゆ き し き み を ば よ よ よ



か え れ さ み と も は よ お よ お



か え れ ソ ル - レ ン ト へ - ソ ル レ ン ト へ

歸れソルレントへ

加茂六郎 作詞

うるわしの海は 嵐澄に輝き

のどかな波間に われを抱くよ

オレンジの花は ゆたかにも香り

微笑む乙女の 胸にも咲くよ

懐しの歌は たからに響きて

遙か旅ゆきし 君をば呼ぶよ

かえれ君 友は呼ぶ呼ぶ

かえれソルレントへ

ソルレントへ

海はふるさとよ とわにぞ變らじ

懐し波の音 君よきかずや

ふしぎなる力 底深く秘めて

盡させぬえにしの ふるさとの海

懐しの歌は 心下にも返えし

マギー 若き日の歌を

一 いにしとの春よ、マギー、

思ひ山の道よ、

小川には水車、マギー、

林には小鳥、

紅の花や、マギー、

さみどりの空や、

まぶたに輝かぶ、マギー、

ありし日のすがた、

年は過ぎ 今ほ、マギー、

思ひ山は あせても、

歌は、声は、マギー、

若き日の歌を、

二 山かげの町よ、マギー、

思ひ山の町よ、

安らかな夜、マギー、

うるわしい春、

まぶたに輝かぶ、マギー、

WE RE-READ THEM



音楽を楽しみましょう。

よい音楽は、わたしたちの心や生活をゆたかにして、人種を和らげ、社会を健全にします。したがって、わたしたちがよい音楽を楽しむことは、ひとりひとりの幸福になるばかりでなく、同時にその幸福が、社会の健全な発展につながっているのです。

音楽の理解を深めましょう。

音楽をよく理解している人は、理解の浅い人よりも、愉快の深い楽しみを得ることができるのです。

Andante (♩=88)

Musical score for 'Maggie Young Days Song'. The score is written on ten staves. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a tempo marking of 'Andante (♩=88)'. The melody is marked with 'mf' (mezzo-forte). The lyrics are in Japanese. The score includes a 'Chorus' section starting on the seventh staff. The final staff ends with a double bar line.

一 いにしえのはるよ マギーおもいでのみち
 二 やまかげのさちよ マギーおもいでのさち
 よ おがわにはすいしや マギーは
 よ やすらかなすまい マギーう
 やしにはことりくれないのはた
 るわしいちまた そよかげはわた
 や マギーさみどりのそらやま
 り マギーあさひかげさしてま
 ぶたにうかふ マギーありしひのすが
 ぶたにうかふ マギーありしひのすが
 たちとしはすぎいまは マギーお
 もいであーせても うたおうこえひく
 ぐ マギーおさひのうたを

110.

Old Black Joe

オールド ブラック ジョー

この歌は 黒人たちのあはれな
魂を歌ったもので、
マニステールの傑作の一つS. Foster
加茂大郎 詞

Adagio



1. Gone are the days when my heart was young and gay;
2. Why do I weep when my heart should feel no pain?

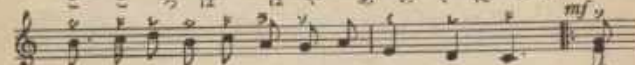
一 わ か き ひ は や す き ゆ き て
二 か え ら ん と も こ い し き に



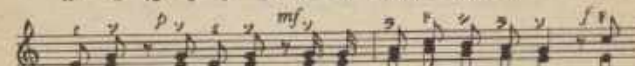
Gone are my friends from the cot-ton fields a-way;
Why do I sigh that my friends come not a-gain?
わ か と も み な こ こ を さ り
な ぜ に か な み た も あ ふ れ



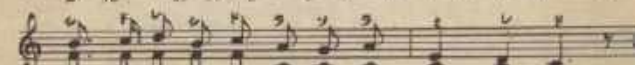
Gone from the earth to a bet-ter land I know,
Griev-ing for forms now de-part-ed long a-go,
た の し き あ の よ に ゆ き ぬ
こ こ ろ は は や あ の く に へ



hear their gen-tle voi-ces call-ing "Old Black Joe!" I'm
ぶ こ え も す る わ が オールド ブラック ジョー の



com-ing I'm com-ing For my head is bend-ing low; I
かん わ れ も と し お い た れ は よ



hear those gen-tle voi-ces call-ing "Old Black Joe!"
お こ え も す る わ が オールド ブラック ジョー

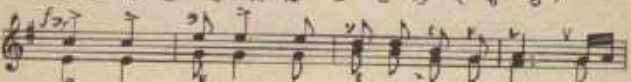
あかるくはすんで



一、ひーとりとのほとほさをびしにたびとよー
 二、おーまたえのえおをゆめにみーてやー
 あーめはアラバはマてうれいけいとわー



ら は る と て つ め た い の き ば
 ま こ え た に こ え か わ を こ え も
 と し の と き に こ こ ろ く ー
 か れ の き に は こ こ ろ く ー



お お ス ザ ナ お ま え の た め はー



る か ア ラ バ マ か ら バ ン ジ ャ ひ い て

フォスターの最も有名な歌の中で、最も広く愛唱されているものの一つ。この歌が「アトランティック」によって作られたことは、この曲のタイトルから推測される。これは、この曲が世界で最も有名な曲の一つである。この曲は、この曲の最も有名な曲の一つである。

おおズサンナ

加茂 六郎 作詞



(Stephen Collins Foster)
 (1826-1864)

一、ひーとりとはく、静かな旅路
 夜は更けて、冷たい月夜
 お前の旅路を、影に見て
 山嶺と草原と、川を隔んで
 おおズサンナ、お前の旅路
 は、お前をアブラマから

バンジャール舞いて

二、あかアブラマから

バンジャール舞いて

いと静かに、遠くに旅た
 雨降れば雲より、晴しいけれど
 別れの時には、心苦しい

おおズサンナ、お前の旅路
 は、お前をアブラマから

バンジャール舞いて

112.

アロハ オエ
Aloha Oeハワイ民謡
加茂六郎作詞

Moderato

一 さらば わかれゆか かん い
ニ アロハ オエ アロハ オエ か
としわがとも なみだ はあふれき
なしうたこえも なみだ にきえゆき
て つきも かすむこよい | さらばよき
て そらも くもきこよい
らばよ ふたりのさちをいのり つな
こりは つきねど いざ わかれゆ かん

“Aloha Oe”は別れの歌で、ハワイの女王イオエカラが作曲したもののようですが、全性質に歌われています。ハワイでははしたしい人と別れるときに、この歌をうたって別れをします。

アロハ・オエ

加茂六郎作詞

一

さらば別れゆかん

いとしの親が友よ

涙はあふれ出て

月もかすむ夕宵

さらばよ

二人の恋を前につ

き残りはつきねど

いざ別れゆかん

アロハオエ アロハオエ

別れの歌聲も

風雨に消えゆつて

恋もくもる夕宵

さらばよ

二人の恋を前につ

き残りはつきねど

いざ別れゆかん

113.

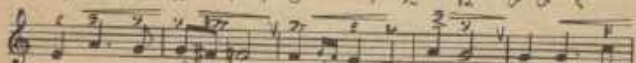
サンタ ルチア

☆ Santa Lucia は、サボタの守護神といわれ、
サボタ舟人の船に歌われていた曲です。ナボリ 民謡
加茂六郎 作詞

Andantino



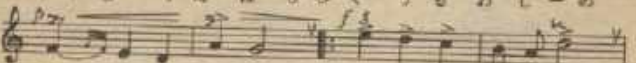
一、つ き は あお く う み を て ら し
二、ふ ね は す す む う た は ひ び く



な み の お も に か ぜ か お る つ き は
う る お し の わ が ナ ボ リ ふ ね は



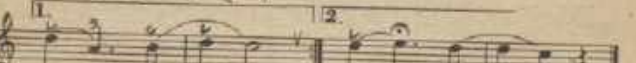
あ お く う み を て ら し な み の お も に
す す む う た は ひ び く う る お し の



か ぜ か お る い ざ や ゆ か ん
わ が ナ ボ リ い ざ や う た わ ん



ふ ね を こ ぎ て サ ン タ ル - チ ア
こ え を か ぎ り



1. サ ン タ ル チ ア 2. サ ン タ ル チ ア

サンタ ルチア

加茂六郎 詞



二、舟は進む歌はひびく

進しの我がナボリ

舟は進む歌はひびく

進しの我がナボリ

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

サンタルチア

いざや歌わん

114.

ボルガの舟歌

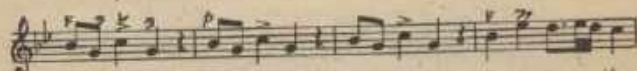
ロシア民謡

ロシア民謡

加賀六郎作

力強く $\text{♩} = 72$ 

エイ コーラ エイ コーラ かけ こーえ



あーげろ エイコーラ エイコーラ そらひーけ



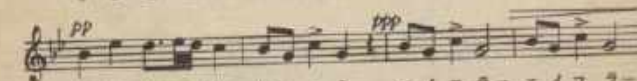
ふーねを まーだひーはーたかい



ゆくてーはーとかい、タイダタイダタイダタイダ



もひとーつ うーたえ エイコーラ エイコーラ



げんきーで いーこう エイコーラー エイコーラー

ボルガ河をさかのぼる荷物船の子
 子たちは、船の綱を肩にかけて、「え
 いこら」とうたいながら引いていま
 ます。長い道のりで、つらいことも
 ありまじうが、そんなとき、この
 舟歌は、きっと舟子たちの心をほ
 げまし、つかれを癒れさせてくれた
 ことでしょう。

エイコーラ
 元氣で行こう
 エイコーラ
 もひとつ歌え
 アイダグ アイダ
 行く手は遠い
 まだ船は高い
 そらひげ舟を
 エイコーラ
 かけぬあげて
 エイコーラ

ボルガの舟歌

加賀六郎作詞

赤いサラファン

☆「サラファン」はロシアの貴族の婦人の服である。
美しい舞い手が多いとされている。

ロシア民謡
加茂 六郎 作詞

♩ = 58 *mp*

一 あー かい サラファンー わが この た め
二 あー かい サラファンー ばる が く れ ば

mp ま こ こ ろ こー め て は り し こ と
か わ い い む す め の は れ す が た

mp ひ と は り こ と の は な も よ う ー
そ そ ろ に う か ら わ か き ひ の ー

mp ほ ほ え み て み る う れ し さ は て
わ が み の す が た し の ば れ て

p は は な れ ば こ そ こ を お も う き
お も い て は こ そ こ ゆ び の さ き

mp ふ お き の い よ あ ふ れ け し も は い る の い ゆ め と
お し お の い よ あ ふ れ け し も は い る の い ゆ め と

赤いサラファン
華が染れば
かわいいたすめの舞れ姿
まことに浮かぶ若き日の
わが身の舞しのばれて
思い出さぬ時のささ
芽をい育れしも
いそぐと

赤いサラファン
わが子のため
まごころを込めて 針仕事
一针ことの 花模様
ほぐれみで見る
うれしさは
母なればこそ子をおもう
歌舞の夜よけに夢の夢





ショパン (Frederic Chopin) 1810-1849

ショパンはポーランドのワルソーの近郊に生まれました。母はポーランド人、父はフランス人だといわれています。母の心とをつくりピアノにうつしおられる音楽家はショパンの外にはありません。夢とがったこと、そこがたこと想像したこと、感じたことそのまゝを、美しいピアノ曲に組み立てて音の詩としたのです。ですからショパンのことをピアノの詩人と呼んでいます。

其の「別れの曲」の原稿は、練習曲(エタニード)二十七曲の中の最も有名な作品であります。

116. Adagio

ショパンの 別れの曲

F. Chopin

は る の ひ ー そ よ か ぜ ー は た ち る み

こ り の か か ー こ ず ん を た の し く わ た る と

り の か げ よ い ず こ の じ に は

ー こ が ら し ー わ か れ の く も は く ら く

ー す ぎ し ひ こ こ ろ に い だ き て は る ば る さ び し く

こ え ゆ く や ま や か わ ー せ め て も わ れ と ろ

れ わ す れ じ の ー わ が う た ー

poco rit. a tempo

crase. *stretto.*

f. rit. *a tempo* *mf*

p *dim.* *gall.* *pp*

ゆづりも、思ひ固まつわして

☆ ロンドンデリーはアイルランド北部の地名

アイルランド 民謡

加茂六郎 作詞

一 た び の そ ら は る か に と お き 一 き た ら
 二 い ま も な お ま お た に う か お 一 わ か き
 に の ふ る さ と よ 一 お き な き ひ と も と あ
 び の ふ る さ と よ 一 に ほ え み て わ れ を む
 そ び し 一 あ の も り よ あ の お か よ 一 め ぐ み
 か え し 一 お と め こ の あ り し も の 一 め ぐ み
 の さ ち よ か え り こ よ 一 か の と き あ り し ま ま
 の さ ち は ち に あ ふ れ 一 リ ン ゴ の は な き く こ
 に 一 ふ か き え に し の つ よ け れ ば 一 と わ に
 り 一 と お き あ こ か れ ゆ め み て は 一 と わ に
 わ す れ じ わ が と か も よ し 一 わ が ふ る さ い と す よ
 わ す れ じ と ち か い し 一 わ が ふ る さ い と す よ

★

ロンドンデリーの歌

加茂六郎 作詞

一
 舞の羽 はるかに遠く
 土曜の わがふるさとを
 訪き日 友と遊びし
 あの舞よ あの丘よ
 あぐみの葉よ かえり来と
 かの舞ありしまに
 涙さえにしのびければ
 こわに忘れじ わが友よ
 わがふるさとを

二

今をなむ まよな此岸に
 若き日の ふるさとを
 はぐえぬて われを魂えし
 乙女のありしもの
 りーみの半は地にあふれ
 リンゴの花散く頃
 過ぎあとがれ夢見では
 こわに忘れじと誓いし
 乙女よいすこ

118.

O Sole Mio

オーソレミオ

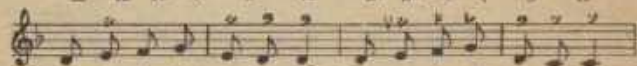
わが太陽

ナポリ民謡
加賀六郎詞

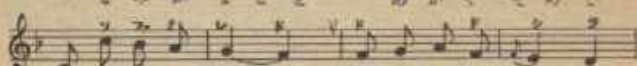
Andante



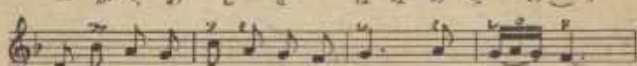
一 はれ ば れ と あ ら し な き て
二 は れ や か に か が や く ひ は



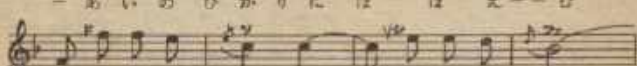
一 あ お き そ ら に 一 ひ は か が や く
一 き み が ま と を 一 あ か く そ め て



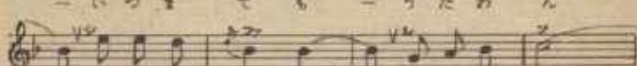
二 う る わ し き そ の ひ よ り も
一 か ら わ し き ほ の そ の う



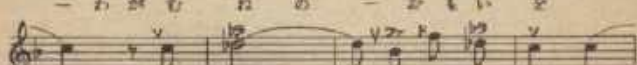
一 い と し か と め の ひ と み 一 は
一 あ い の ひ か り に ほ ほ え 一 む



一 い つ の ひ も 一 か わ ら ず
一 い つ ま て も 一 う た わ ん



一 わ が む れ に 一 は は え む
一 わ が む れ の 一 お も い を



一 あ あ 一 あ い の ひ よ
一 あ あ 一 あ こ が れ の



一 さ ぼ う の 一 ひ か り よ 一
一 め が み よ 一 わ が ひ よ 一

おおソレミオ
(おが太陽)

一 晴ればれと風なきて
霞き空に 陽はかがやく
さるわしき その胸よりも
いとしき友のひとみは
いつの日も変わりず
わが胸に はぐれむ
あゝ 燈の灯よ 希望の光よ

二 朝れやかに輝く陽に
君が夢を 紅く染めて
かくわしき 花の園生
愛のひかりに 照れむ
いつまでも離れぬ

わが胸の闇いを
あゝ 燈の光よ わが胸よ



マロウを言えば、オト「マロウのまじなみ」を思い出すほど、古くから私達の耳に親しい曲です。
なつかしい旋律が、一音程に低いアコードをもったメロディのリズムに乗って流れて来る時
優美な舞踏を思ひ出すと、見る夢に似ています。

イバノブナは、19世紀後半に活躍したルーマニアの音楽家です。おれの曲はこのマロウ「マロウの
まじなみ」によって、広く知られています。マロウはオーストリアを離れ、ウィーン、ブダペストを遍歴し、
旅路に出で、曲は中欧文化の中心になつてゐる。

ドナウ川のさざなみ

月 夜のぼの 照りいでて
舞に にじむ 夜半の空
夢 醒して、ドナウ川
月の広野 越えてゆく

さざらに響く水に

船の灯は揺れ、

鳥はさめて しばぬさ
あしの里すえ きらめく
月のさざなみ

野鳥 はるけく ドナウ川
月を待つ 流れゆく



ボートの歌

こげや こげ、
川波 船に漕べば
舟は笑のごとく
水を渡る。

こげ こげ こげ、
彼は早く、
舟の波に
長くつらなる。

二 こげや こげ、
舟に さかりにやう
花は手をのべて
われを揺る。
こげ こげ こげ、
風は強く、
舟をかすめ
心さわやか。

堀内 智三 作曲
イヴァン ウィチ 作詞

マヨラのタンゴで (♩ = 146)

一 つ き 一 は の ぼ 一 の て り
 二 ゆ め 一 ひ た し 一 て ド ナ
 一 い し て 一 き り 一 に し
 一 ウ か わ 一 つ さ 一 の ひ ろ
 一 り と 一 の そ ら 一 く
 一 の こ え 一 て ゆ
 さざらによるみずにはねのひはゆれ
 とりはさめてしばなきあしのはずえきらめ
 くつきのさざなみ 一 の し 一 はる
 け 一 く ド ナ 一 ウ が わ 一 つ き
 一 を う か 一 べ な が 一 れ ゆ く 一

一としききものたりせり
 一のや
 かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ
 かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ
 ふい 一 一 るきむかしたよ
 かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ
 かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ かつこ
 かつこ かつこ あ 一 一 われくすし
 かつこ かつこ は 一 一 つねまなび
 く 一 も 一 う 一 たは
 て 一 ゑ 一 う 一 たは
 二. 三
 しかたならず かつこ かつこ かつこ め
 かなたなる かつこ かつこ かつこ

音程をのりずらないように、はきはきととり、さむやから気分が重くならない。中間部は、西小節ずつの区切りになっていますから、一小節ずつの練習にこだわらなくて、西小節ずつを一小節と想って、リズムをうっていいし、真すのびずき持も間違わずに、むすんで歌うことができます。なおその時、下の声部の「オーオキ」を、よく聞きながら歌う。テーマのリズムをよくのります。

[illegible]

122. 希望のささやき

作詞 金子作
作曲 堀江 一雄



122. 希望のささやき

作詞 金子作
作曲 堀江 一雄

は あ ま つ み つ か い の こ と は
二 あ わ き た そ が れ に ま や み

つ り み り り り り り り り り
つ り り り り り り り り り
さ た が ら 一 こ え も ひ そ や か ら に
せ ま れ ば 一 く ら き よ の そ から に

は ほう さ た や く 一 や い み は よ も に
ほ し は さ た た く 一 い よ よ ふ け め

ト こ め て あ ひ ゐ は た い け れ ど
き め て あ ひ ゐ は た い け れ ど

あ し ひ の ほ り か ら も な か ま
よ は に し の り る あ ぜ の な か ま

一 二 き 一 二 き
き ほう の き ほう の



カープは アメリカの楽譜作曲です。女性的なやわらかい美しいメロディーは 誰の心にも 美しい
希望を孕んでいます。後半の二つのメロディーが織りあっている美しさを、よく聴きましょう。

希望のささやき

一 天つ御使の ことば さながら
あもひそやかに 希望ささやく。
朝は四方にこの 風たけれど、
弱くもあした、足よ、

をべてしすけし、

希望の うれしことばよ、
あきにも幸はひそむ。

二 ひとまたそがれて

風にしずめば

朝き夜の空に 星はまたたく。
風のとほきぬれ 思い届けど、
清くここに照る 朝の光よ、
希望の うれしことばよ、
あきにも幸はひそむ。

ひばり

一 朝け行く みぎに、
して起き いでて、
雲間に 遊べる、
われは 朝ひばり。
来しや、望みをもちて
とび行く 姿を見よや。

二 かすみせ へだてて

鳩山を 見れば、

もも鳥 わやかに

木の葉に さえやる。

うれしや、朝日さしたる、

ひねもす み空に歌わん。

三 路を行く はかげに

別れを つげて、

ぬぐしを いそげる

われは 夕ひばり。

朝日また ここにそそきて

聞かまし ひばりのうたを。

123. ひばりの歌

作 詞 者 木 村
サ ム ー パ ー 作 曲



Chorus



弱かに



125. Holy Night 聖 夜

この歌は、ドイツの歌として、世界中に知られてゐる。作曲者グノーバー (1787-1863) は、ドイツのザルツブルグに生れ、教会のオルガニストとして、音楽家としてゐた。

詞 英 歌
グノーバー 作曲

静かに *pp* 104



— Si - lent night! Ho - ly night! All is calm, all is bright!
 — Si - lent night! Ho - ly night! Shep-herds wake at the sight!
 — せ り し こ の よ る ほ し は ひ か り
 — せ り し こ の よ る み つ げ う け し
 — せ り し こ の よ る み く の え ん だ



Round you vir - gin moth-er and child! Ho - ly in - fant, so in - nocent and mild
 Glo - ries stream from heav - en a - far. Heav'n-ly hosts sing Hal - le - lu - ia;
 す く い の み こ は み は じ の ひ ー ん だ
 ひ つ じ か い ん は み こ の み ま え だ
 め ぐ み の み ま の あ し た の ひ か り



Sleep in heav-en-ly peace, — Sleep in heav-en-ly peace, —
 Christ, the Sav - ior, is bor - n. Christ, the Sav - ior, is born! —
 お ひ り た ん う へ ん だ や す く
 の か ら ー ん だ か し た ん て
 か が や ー け り だ ー ん か だ

126.

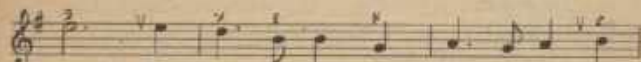
Auld Lang Syne

螢の光

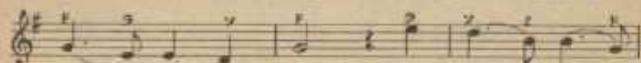
Moderato



Should auld ac- quaint- ance be for- got, And nev- er brought to
 ショウド オールド アクワインタンス ビー フォーゴット アンド ネヴアー ブrougt ト
 は た る の ひ か ー り ま と の ゆ ー



mind? Should auld ac- quaint- ance be for- got, And
 マインド ショウド オールド アクワインタンス ビー フォーゴット アンド
 さ ん ん よ む つ き ー ト か



days of auld lang syne? For auld... lang...
 デイズ オフ オールド ラング サイン フォー オールド ラング
 さ ん づ ー つ い つ し か と



syne, my dear, For auld... lang... syne, We'll
 サイン マイ ディア フォー オールド ラング サイン ウェル
 し も す ぎ ー の と を あ



take a cup o' kind- ness yet, For auld... lang... syne.
 テイク ア カップ オフ キンデネス ヌー フォー オールド ラング サイン
 け て コップ け さ ー は お か れ ゆ ー く



二
 螢の光
 はたるの光
 恋の音
 ふみ読む月日
 重ねつつ
 いっしが年を
 すぎの身を
 あけてそけうは
 別れゆく
 ひとまるも行くも
 限りどて
 かたみにまう
 らよらずの
 心のしそ
 ひごこには
 きさくどばかり
 歌うなり

— み な さ ん —

この本は……

- ★ 世界各国の歌曲の中からやさしくて美しいもの、楽しく親しめるものを集めた。
- ★ 特に、合唱は楽譜の勉強と併行して、音の重なりや組立てなどを調べながら、歌えるようにしてある。
- ★ 歌声は強くはりあげないで、やわらかに軽く歌おう。
- ★ どの歌曲も、暗唱できるまで練習して、心から楽しんで歌うようにしよう。

次に 練習上大切な点を述べておきます。



☆よく楽譜を読むこと。

最初は、階名（ドレミ）で 何回も繰り返して歌いましょう。皆さんのよく知っている曲の楽譜が階名ですらすら歌えるようになれば、新しい歌曲も自分の力で歌えるようになります。

☆リズム打ちすること。

曲のリズムを正しくつかむために、声で「タンタン」とか「イチニイ」と呼びながら手で「リズム打ち」するのです。

☆音程を正しく歌うこと。

何かの楽器に合せて 階名で やさしい曲を沢山歌うのです。すると自然に音程（音の高低）がわかって来ます。

この本には……

楽譜がすらすら読めるように どの歌曲にも 階名がつけてあります。ですから やさしく楽譜がよく読めて 楽しんで歌うことが出来るものと信じます。

みなさんの上達と喜びを念じながら……

★ 読者の要求に応じて 第二集は同じ体裁で別に発行されます。

昭和三十年十一月第一版發行
日本評論著作權協會登記

價六十円

編者

東京都千代田區大手町一ノ七

婦人少年協會

発行所

草野茂三郎

発行所

東京都文京區西片町一〇 いノ五五

シンフォニー楽譜出版社

電話 二六三七番
東京 七八四四二番

